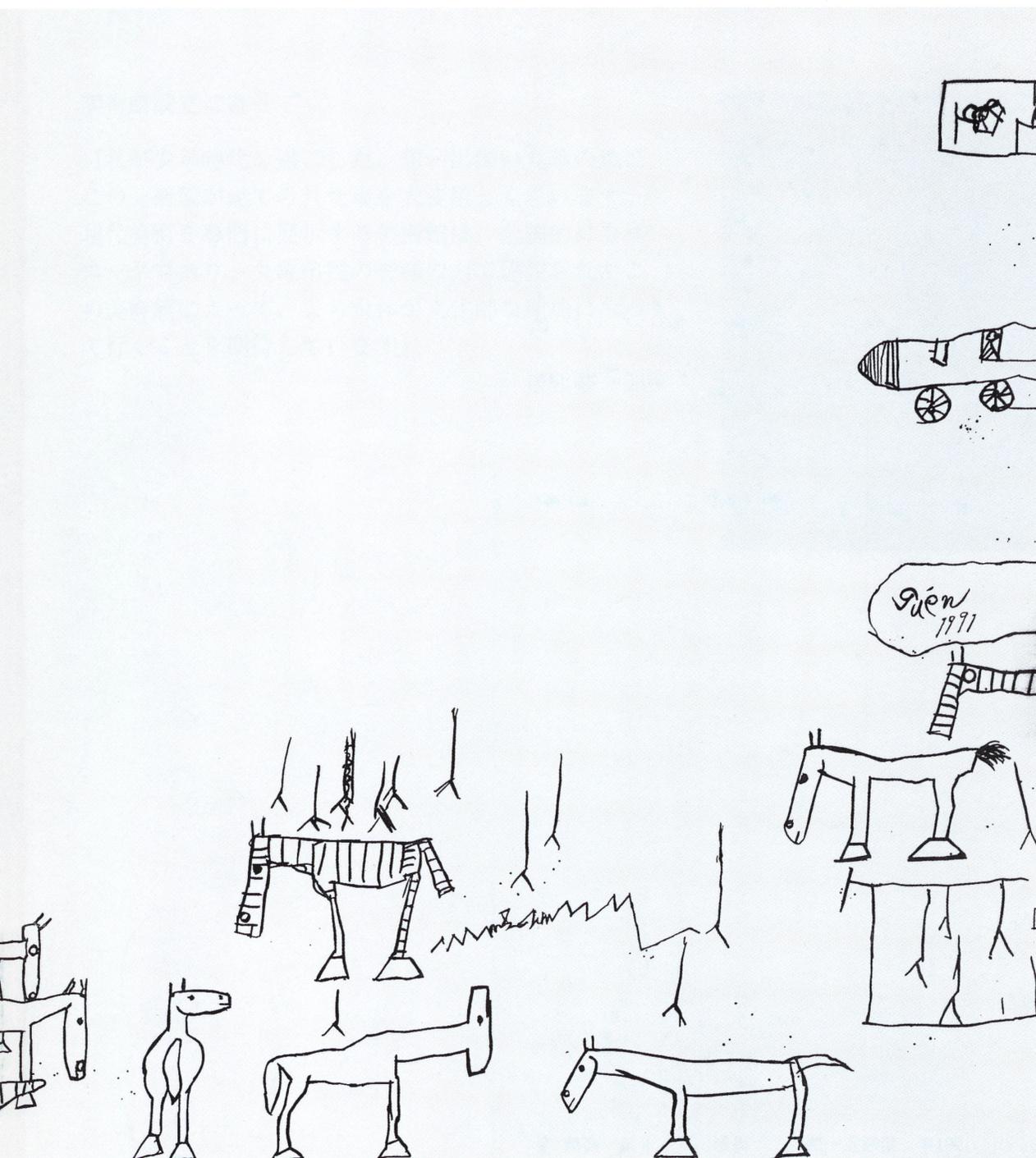
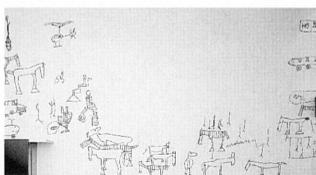


丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 年報1991-94



表紙 壁画『創造の広場』1991年 猪熊弦一郎 撮影 フォトス 高橋 章



縦 1150cm

横 2157cm

材質 大理石（ギリシア産）

御影石（岐阜・美濃産）

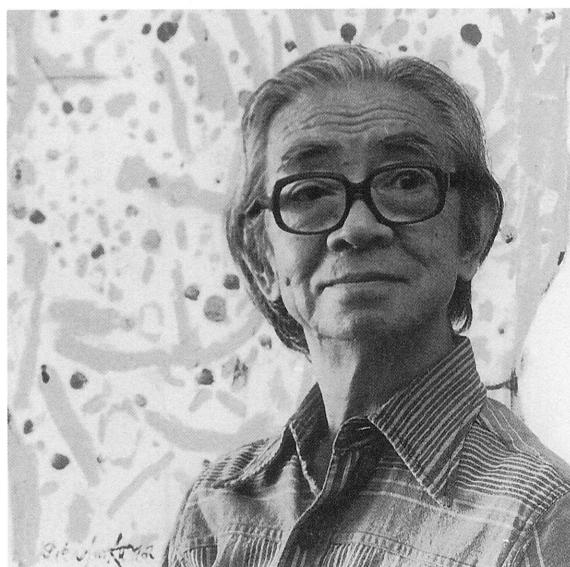
『壁画の主題になっている馬は、人間をはじめとする生き物の代表として描いたものです。壁画のあるゲートプラザには、壁画のほかに彫刻類もあり、この広場に立ったとき、空間の広さと美しさを感じ、それぞれの人に新たな創造の意欲がわき出るような広場にしたいかったです』

猪熊弦一郎

美術館設立に寄せて

『私が少年時代を過ごした、思い出深い丸亀の地にこの美術館が建てられた事を大変嬉しく思います。現代美術を専門に展示する美術館は、全国的にもユニークであり、丸亀市民の皆様の方で建設されたこの美術館によって、まち全体が文化的な環境になって行くことを期待しています』

猪熊弦一郎



©Francis Haar

凡例

作品リストは自主企画にのみ掲載した。作品のサイズは縦×横cm、立体作品については高さ×幅×奥行cmで記した。また、猪熊弦一郎の作品の所蔵者は、特に記していない場合は当館である。

目次

I	沿革	1
II	展覧会一覧 (1991-1994)	2
III	展覧会	
	91年度 1 開館記念猪熊弦一郎展	3
	92年度 2 クリスト展	7
	3 猪熊弦一郎の世界 1920-1950	8
	4 版画芸術の饗宴	11
	5 猪熊弦一郎の世界 1920-1950 II	12
	6 ティンガティンガ	14
	7 心友イサム・ノグチとともに	15
	93年度 8 村井正誠展	19
	9 猪熊弦一郎 写実から抽象への道程	20
	10 猪熊弦一郎 表紙絵展	23
	11 猪熊弦一郎 素描展	30
	12 藤島武二と9人の若き洋画家たち	32
	13 新制作ミモカ展	35
	14 ミロ展	39
	15 軽井沢ドロ잉・ビエンナーレ 1993	40
	94年度 16 デイヴィッド・ホックニー展	41
	17 レジェ展	42
	18 アフリカの動物と精霊たち展	43
	19 猪熊弦一郎遺作展	44
	20 勅使河原宏展	48
	21 20世紀美術の巨匠たち	50
	22 猪熊弦一郎の世界 作品とコレクション	51
IV	ワークショップ	55
V	コンサート・文化講演会	61
VI	刊行物一覧	68
VII	美術図書室利用状況	70
VIII	ミュージアムショップ	71
IX	美術品の貸出	74
X	入館者状況	76
XI	組織図	77
XII	施設概要	79
XIII	利用案内	81

I

沿革

- 1987年(昭和62年)10月 丸亀市が市制90周年事業として
猪熊弦一郎美術館の建設を発表
- 1988年(昭和63年)1月 美術館建設懇談会設置
7月 美術館建設懇談会、市長に意見書提出
8月 美術館建設基本構想策定
9月 美術館基本設計委託
9月 丸亀駅前地下駐車場建設工事着工
11月 美術館準備室設置
- 1989年(平成元年)2月 美術館基本設計完了
3月 美術館実施設計委託
5月 美術館基本設計変更案決定
9月 美術館実施設計完了
11月 美術館建設工事着工
12月 美術館建設工事起工式
12月 猪熊弦一郎から丸亀市へ「夜」「猫に寄せる歌」
「二つの岸A」等、第一回分として作品1000点を寄贈
- 1990年(平成2年)3月 丸亀駅前地下駐車場建設工事竣工
- 1991年(平成3年)3月 J R丸亀駅南口広場の整備工事完成
3月 定礎式と壁画「創造の広場」除幕式
3月 猪熊弦一郎に名誉市民賞授与される(丸亀市第1号)
6月 美術館建設工事竣工
9月 丸亀市美術館条例制定
10月 美術館の愛称が「MIMOCA」に決定
11月 落成式
11月 一般公開(23日)
- 1992年(平成4年)3月 入館者5万人達成(28日)
5月 猪熊弦一郎から丸亀市長とのかねてからの約束に
基づき所有する作品等を市に寄贈する主旨の文書提出
10月 入館者10万人達成(9日)
12月 第26回サイン・デザイン賞受賞
- 1993年(平成5年)4月 財団法人ミモカ美術振興財団設立
5月 猪熊弦一郎、東京にて死去(17日、満90歳)
9月 第34回建築業協会賞受賞
- 1994年(平成6年)5月 第7回村野藤吾賞受賞
8月 入館者30万人達成(4日)



II

展覧会一覧 (1991—1994)

	No	展覧会名	会期	
1991 (平成3年度)	1	開館記念 猪熊弦一郎展	91年11月23日～92年3月31日	
1992 (平成4年度)	2	クリスト展 ヴァレー・カーテンの全貌とアンブレラのためのドローイング	92年4月11日～92年5月10日	
	3	猪熊弦一郎の世界 1920-50 写実からモダニズムへ	92年5月15日～92年7月31日	
	4	版画芸術の饗宴 ケネス・タイラーと巨匠たち 1963-1992	92年8月6日～92年9月20日	
	5	猪熊弦一郎の世界 1920-50 II 写実からモダニズムへ	92年9月26日～92年10月11日	
	6	ティンガティンガ アフリカからの熱きメッセージ・大自然とともに生きる絵画	92年10月15日～92年11月15日	
	7	猪熊弦一郎卒寿記念展 心友イサム・ノグチとともに	92年11月23日～93年3月28日	
	1993 (平成5年度)	8	日本の抽象 村井正誠展 1965年以後 ヒューマニズムの色面構成	93年4月10日～93年5月9日
9		猪熊弦一郎展 写実から抽象への道程	93年5月13日～93年6月26日	
10		猪熊弦一郎 表紙絵展 「小説新潮」40年間の表紙を飾った顔たち	93年7月4日～93年8月29日	
11		猪熊弦一郎 素描展	93年9月3日～93年10月11日	
12		藤島武二と9人の若き洋画家たち	93年10月17日～93年12月19日	
13		新制作ミモカ展	93年12月25日～94年1月23日	
14		生誕100年記念 ミロ展 地中海に咲いた版画芸術	94年1月29日～94年3月21日	
15		軽井沢ドローイング・ビエンナーレ 1993	94年3月26日～94年5月8日	
1994 (平成6年度)		16	デイヴィッド・ホックニー展 カリフォルニアの光と大地	94年5月15日～94年6月19日
		17	レジェ展	94年6月25日～94年7月30日
		18	アフリカの動物と精霊たち展 <small>アフリカがやってきた 美術・音楽・映画でアフリカを体験しよう</small>	94年8月3日～94年10月2日
	19	猪熊弦一郎遺作展 青春の軌跡	94年10月9日～95年1月8日	
	20	猪熊弦一郎追悼 勅使河原宏展 雲とともに	94年10月9日～95年1月8日	
	21	ミルウォーキー美術館所蔵 20世紀美術の巨匠たち <small>ピカソからウォーホルまで</small>	95年1月14日～95年2月26日	
	22	猪熊弦一郎の世界 作品とコレクション	95年3月5日～95年5月7日	

III

展覧会

1 開館記念 猪熊弦一郎展

会期 1991年11月23日(土)~1992年3月31日(火)

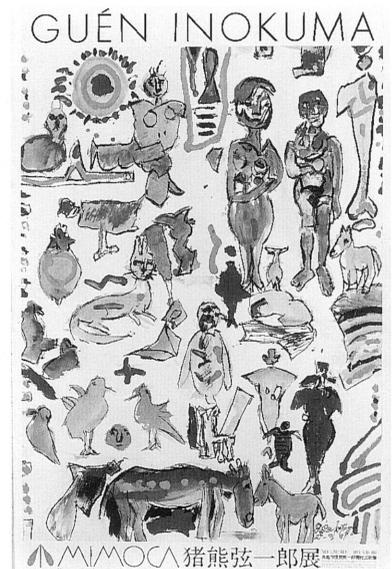
主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀市の市制施行90周年記念事業として建設された丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の開館記念展「猪熊弦一郎展」を開催した。この展覧会では猪熊芸術の70年に及ぶ画業のうち、猪熊弦一郎に大きな影響を与える舞台となったパリ、ニューヨーク及びホノルルで制作された作品を中心に猪熊弦一郎の世界を展望した。

展示室Aでは猪熊芸術の出発点である東京美術学校時代と1938年絵画の新境地を開くために渡欧し、フォーヴィスムの画家アンリ・マティスを師と仰ぎ、画面の自由奔放な純化を追求したフランス留学時代を回顧した。

展示室B・Cでは、1955年以降40年に及ぶ抽象の世界を回顧した。1955年パリに向かう途中立ち寄ったニューヨークの街にひかれ、以後20年間滞在、ニューヨークの街は、猪熊の作風に大きな影響を与え画風は半抽象から完全な抽象に移った。また、1973年ニューヨークでの活動を中止し帰国。1975年からは毎年冬はホノルルで、夏は東京で制作活動を続けた。ハワイの明るい太陽のもと、猪熊芸術は、ますます円熟味を増している。

本展は猪熊弦一郎が自ら立てたプランに基づき開催された最初の記念すべき展覧会である。



刊行物 開館記念図録『猪熊弦一郎展』

入場者数 50,603人

作品リスト

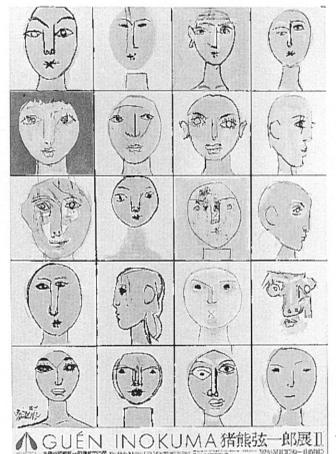
番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	雪の道	1923	油彩・板	45.5× 45.6
3	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
4	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
5	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
6	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
7	地下鉄の中 (巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
8	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
9	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 64.4
10	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
11	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
12	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	80.6× 60.4
13	ヴィーナス誕生 A	1940	油彩・カンヴァス	79.5× 64.5
14	ヴィーナス誕生 B	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 64.0
15	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
16	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0
17	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0× 61.0
18	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
19	黄色の反響	1960	油彩・カンヴァス	200.3×175.0
20	獅子舞	1961	油彩・カンヴァス	203.0×183.0
21	八木節	1962	油彩・カンヴァス	203.5×172.8
22	都市計画	1963	油彩・カンヴァス	203.5×177.6
23	混乱と秩序 A	1964	油彩・カンヴァス	203.1×177.8
24	スネーク ライン	1964	油彩・カンヴァス	126.7×203.5
25	並木道	1964	油彩・カンヴァス	152.5×101.5
26	にぎやかな通り	1964	油彩・カンヴァス	152.6×127.5
27	ブラック サークル	1964	アクリル・カンヴァス	152.8×152.4
28	桃色の地図	1966	アクリル・カンヴァス	203.5×126.8
29	街青 No.2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
30	街緑 No.1	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0
31	街緑 No.2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
32	水辺 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
33	二つの岸 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
34	二つの岸 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.7×178.0
35	水辺 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
36	二つの岸 C	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
37	風景 DW	1972	アクリル・カンヴァス	203.6×178.0
38	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0×202.5
39	風景 BY	1972	アクリル・カンヴァス	203.5×178.8
40	風景 GT	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
41	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0×182.0
42	宇宙は機械の運動場 No. 1	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×140.0
43	宇宙は機械の運動場 No. 2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×250.0
44	無重力地帯の中に住む生物	1983	アクリル・カンヴァス	234.5×122.0
45	星からの手紙ラブ 2	1983	アクリル・カンヴァス	200.0×250.2

番号	作品名	制作年	材質	サイズ
46	遊泳する窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0×290.6
47	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
48	銀河旅行	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×130.5
49	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0
50	黄色の星座	1986	アクリル・カンヴァス	182.0×152.0
51	太陽は待って居る	1987	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
52	顔 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
53	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
54	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
55	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
56	三つの言葉	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
57	鳥たちの日記帳	1990	アクリル・カンヴァス	193.8×259.0
58	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	389.0×259.0
59	宇宙都市休日	1991	アクリル・カンヴァス	400.9×250.5

3月10日からは次のように一部作品を入れ替えて展示した。

作品リスト

番号	作品名	制作年	材質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	雪の道	1923	油彩・板	45.5× 45.6
3	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
4	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
5	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
6	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
7	地下鉄の中(巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
8	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
9	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 64.4
10	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
11	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
12	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	80.6× 60.4
13	ヴィーナス誕生 A	1940	油彩・カンヴァス	79.5× 64.5
14	ヴィーナス誕生 B	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 64.0
15	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
16	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0
17	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0× 61.0
18	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
19	ブラック サークル	1964	アクリル・カンヴァス	152.8×152.4
20	並木道	1964	油彩・カンヴァス	152.5×101.5
21	にぎやかな通り	1964	油彩・カンヴァス	152.6×127.5
22	街青 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
23	街緑 No. 1	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0
24	街緑 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0



番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
25	水辺 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
26	二つの岸 C	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
27	二つの岸 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
28	二つの岸 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.7×178.0
29	風景 DW	1972	アクリル・カンヴァス	203.6×178.0
30	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0×202.5
31	風景 B Y	1972	アクリル・カンヴァス	203.5×178.8
32	風景 G T	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
33	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0×182.0
34	宇宙は機械の運動場 No. 1	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×140.0
35	宇宙は機械の運動場 No. 2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×250.0
36	無重力地帯の中に住む生物	1983	アクリル・カンヴァス	234.5×122.0
37	星からの手紙ラブ 2	1983	アクリル・カンヴァス	200.0×250.2
38	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
39	黄色の星座	1986	アクリル・カンヴァス	182.0×152.0
40	銀河旅行	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×130.5
41	通信衛星	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0
42	太陽は待って居る	1987	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
43	Faces 15	1988	アクリル・カンヴァス	135.9×121.1
44	Faces 11	1988	アクリル・カンヴァス	126.9× 91.0
45	Faces 25	1988	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0
46	Faces 36B	1988	アクリル・カンヴァス	130.3× 97.1
47	顔 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
48	Faces 20C	1989	アクリル・カンヴァス	152.0×121.4
49	Faces 35	1989	アクリル・カンヴァス	136.0×121.3
50	Faces 71	1989	アクリル・カンヴァス	135.9×121.4
51	Faces 20B	1989	アクリル・カンヴァス	127.1× 96.4
52	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	130.4× 97.2
53	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
54	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
55	Faces 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.5
56	Faces 20A	1989	アクリル・カンヴァス	127.0× 96.3
57	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
58	Faces 20D	1989	アクリル・カンヴァス	126.0× 90.8
59	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
60	三つの言葉	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
61	裸婦9 顔15 鳥2	1990	アクリル・カンヴァス	130.5× 97.1
62	鳥たちの日記帳	1990	アクリル・カンヴァス	193.8×259.0
63	手の残した言葉	1991	アクリル・カンヴァス	389.0×259.0
64	宇宙都市休日	1991	アクリル・カンヴァス	400.9×250.5

2 クリスト展

ヴァレー・カーテンの全貌と
アンブレラのためのドローイング

会期 1992年4月11日(土)～5月10日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
毎日新聞社

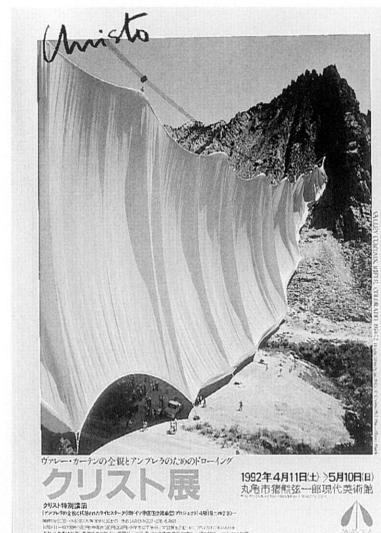
後援 アメリカ大使館, 四国新聞社, 山陽新聞社

協力 日本航空

クリストは、自然の空間や歴史的建造物を梱包したりアメリカの丘陵に42kmにわたって白い布の壁「ランニング・フェンス」を設置するなど、大規模で非常に個性的なプロジェクトを展開してきた作家である。

展覧会は20年近い隔たりのある2つのプロジェクトを通してクリスト芸術を展観したものである。まず、梱包以外の方法で布を使用した最初の大規模なプロジェクトであるコロラドの「ヴァレー・カーテン」(1970-72年)をオリジナルドローイング、図面、模型とともに実際に使用した布、ワイヤー、ロープなどによって回顧した。さらに「アンブレラ」は1984年の最初のドローイングや作品の進行状況を中心に、プロジェクトの実現写真も織りまぜて展示した。

クリスト本人の講演会では今後のプロジェクトであるライヒスターク(旧ドイツ帝国国会議事堂)についても語られた。参加者からは多くの質問が投げかけられるなど、彼の今後の動向に大いなる期待と関心が寄せられた。



関連企画

講演会

4月11日(土) 「アンブレラの全貌と梱包されたライヒスターク(旧ドイツ帝国国会議事堂)プロジェクト」

講師 クリスト(通訳 柴田節子)

聴講者数 350人

入場者数 5,851人

3 猪熊弦一郎の世界 1920-50

写実からモダニズムへ

会期 1992年5月15日(金)～7月31日(金)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

1922年から1953年までの30年間の写実からモダニズムへの変遷を回顧した。猪熊芸術の出発点である東京美術学校時代さらに帝展を舞台に活躍した1920年代の作品には初々しい叙情をたたえた写実的な表現が見られる。第2次大戦前の1930年代には恐慌と戦争の暗く不安な時代だったが、美術の分野では様々な展開が図られた。その中で、猪熊芸術も新しい時代感覚を反映させた具象絵画の可能性に挑戦した。また、この時代の作品には若い仲間と新会派を結成するなど純粋な芸術活動への意気込みが感じられる。1938年、絵画の新境地を求めて渡欧したが、フランスでのアンリ・マティスとの出会いが猪熊芸術に大きな影響を与え、美しい色彩、画面の自由奔放な純化など様々な表現を追求し、この時代猪熊芸術の具象的な絵画は頂点に達した。

GUÉN INOKUMA



入場者数 7,834人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
3	裸婦像	1925	油彩・カンヴァス	100.0× 80.5
4	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8× 91.0
5	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0×290.0
6	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1×288.7
7	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0×130.0
8	昼	1937	油彩・カンヴァス	193.5×130.5
9	夜	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5
10	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	191.5×129.0
11	広場の子供達	1938	油彩・カンヴァス	54.6× 37.6
12	赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス	45.5× 38.0
13	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
14	地下鉄の中 (巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
15	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
16	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
17	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	80.4× 65.4
18	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 64.4
19	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
20	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
21	ジブシーの子供	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 60.0
22	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0
23	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
24	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	80.6× 60.4
25	長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	130.5×194.0
26	立てるダンスーズ	1947	油彩・カンヴァス	93.0× 61.6
27	箱の中の子猫	1949	油彩・カンヴァス	80.5× 65.0
28	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	80.0× 64.1
29	サリーの女	1949	油彩・カンヴァス	79.7× 65.1
30	壺と婦人座像	1950	油彩・カンヴァス	80.0× 65.0
31	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5× 91.0
32	立てる群像	1951	油彩・カンヴァス	131.5×162.4
33	猫と住む人	1952	油彩・カンヴァス	130.8×193.5
34	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
35	からす	1953	油彩・カンヴァス	130.0×194.0
36	青の角	1977	アクリル・カンヴァス	115.9× 90.0
37	ピンク角	1977	アクリル・カンヴァス	119.9× 85.0
38	地図でない地図 (C)	1978	アクリル・カンヴァス	122.0× 86.7
39	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.5
40	星都市	1980	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.6

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
41	ピンク色の星座	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
42	垂直に飛ぶ	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
43	黒の中に住む褐色の世界	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
44	休息を待つ星達	1983	アクリル・カンヴァス	111.3× 96.0
45	ロックミュージック	1984	アクリル・カンヴァス	111.2× 96.0
46	アリゾナ通信	1984	アクリル・カンヴァス	111.2× 96.0
47	星座 B	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
48	動物と旗	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
49	風車と発芽	1985	アクリル・シール貼付・ カンヴァス	111.0× 96.0
50	都市発芽	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
51	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
52	Faces 25	1988	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0
53	Faces 36B	1988	アクリル・カンヴァス	130.3× 97.1
54	Faces 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.5
55	Faces 35	1989	アクリル・カンヴァス	136.0×121.3
56	Faces 20C	1989	アクリル・カンヴァス	152.0×121.4
57	Faces 71	1989	アクリル・カンヴァス	135.9×121.4
58	Faces 20B	1989	アクリル・カンヴァス	127.1× 96.4
59	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
60	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
61	Faces 20A	1989	アクリル・カンヴァス	127.0× 96.3
62	Faces 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.5
63	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	130.4× 97.2
64	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
65	Faces 20D	1989	アクリル・カンヴァス	126.0× 90.8
66	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
67	裸婦9 顔15 鳥2	1990	アクリル・カンヴァス	130.5× 97.1

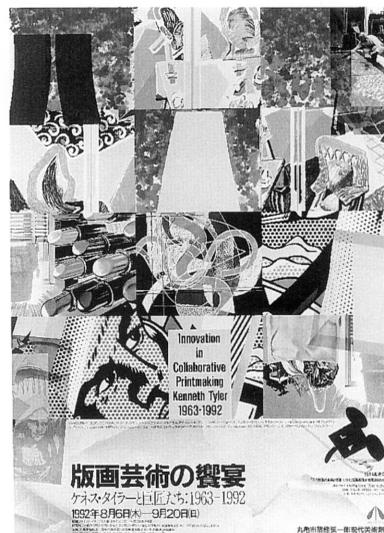
4 版画芸術の饗宴

ケネス・タイラーと巨匠たち
1963—1992

会期 1992年8月6日(木)～9月20日(日)
主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 読売新聞社
美術館連絡協議会
後援 アメリカ大使館, NHK高松放送局
協賛 花王株式会社
協力 大日本印刷

今日アメリカの現代版画は技術性、芸術性において世界の版画芸術をリードする水準に達している。こうした発展は、この30年余りのうちに達成されたのだが作家と共に重要な役割を担ったのが、いくつかの版画工房だった。なかでもケネス・タイラー工房は代表的な工房の一つである。マスター・プリンターであるケネス・タイラーは版画制作の技術的な可能性に革新的な試みをしたことで、版画史上その功績が高く評価されている。彼は、アメリカ版画工房のバイオニアであるタマリンド・リトグラフィー工房で研究を重ねた後、ジェミナイ G.E.L. 工房、タイラー・グラフィックス工房を設立し、ホックニー、ステラ、リキテンスタイン等のアメリカ現代美術の巨匠たちとの密度の高い共同制作により数々の傑作を生みだした。

本展では、20作家との共同制作による100余点の代表作によって、タイラーの30年におよぶ軌跡を紹介した。



関連企画

講演会

8月9日(日) 「アメリカ現代美術と版画—いかに版画表現が拡張されたか—」

講師 天野太郎 (横浜美術館学芸係長)

聴講者数 75人

入場者数 8,651人

5 猪熊弦一郎の世界 1920-50 II

写真からモダニズムへ

『猪熊弦一郎の世界 1920-50』展の作品を一部変えて展示した。

会期 1992年9月26日(土)~10月11日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

関連企画

対談

9月27日(日) 「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館の設計について」

主催 (社)日本建築学会

共催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

対談 谷口吉生(谷口建築設計研究所所長)・猪熊弦一郎

聴講者数 210人

入場者数 3,083人

作品リスト

番号	作品名	制作年	材質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	裸婦像	1925	油彩・カンヴァス	100.0× 80.5
3	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
4	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8× 91.0
5	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0×290.0
6	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1×288.7
7	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0×130.0
8	昼	1937	油彩・カンヴァス	193.5×130.5
9	夜	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5
10	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	191.5×129.0
11	地下鉄の中(巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
12	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
13	赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス	45.5× 38.0
14	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
15	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
16	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
17	サクラランボ	1939	油彩・カンヴァス	80.4× 65.4
18	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
19	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
20	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 64.4
21	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
22	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
23	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	80.6× 60.4
24	長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	130.5×194.0
25	立てるダンスーズ	1947	油彩・カンヴァス	93.0× 61.6
26	箱の中の子猫	1949	油彩・カンヴァス	80.5× 65.0
27	婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス	80.0× 64.1
28	サリーの女	1949	油彩・カンヴァス	79.7× 65.1
29	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5× 91.0
30	壺と婦人座像	1950	油彩・カンヴァス	80.0× 65.0
31	立てる群像	1951	油彩・カンヴァス	131.5×162.4
32	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
33	猫と住む人	1952	油彩・カンヴァス	130.8×193.5
34	からす	1953	油彩・カンヴァス	130.0×194.0
35	青の角	1977	アクリル・カンヴァス	115.9× 90.0
36	ピンク角	1977	アクリル・カンヴァス	119.9× 85.0
37	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.5
38	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0×182.0
39	星都市	1980	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.6
40	垂直に飛ぶ	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
41	ピンク色の星座	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
42	黒の中に住む褐色の世界	1981	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
43	休息を待つ星達	1983	アクリル・カンヴァス	111.3× 96.0
44	ロックミュージック	1984	アクリル・カンヴァス	111.2× 96.0
45	アリゾナ通信	1984	アクリル・カンヴァス	111.2× 96.0
46	星座 (B)	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
47	動物と旗	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
48	風車と発芽	1985	アクリル・シール貼付・ カンヴァス	111.0× 96.0
49	都市発芽	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
50	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
51	Faces 25	1988	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0
52	Faces 36 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	130.3× 97.1
53	Faces 15	1988	アクリル・カンヴァス	101.6× 96.6
54	Faces 35	1989	アクリル・カンヴァス	136.0×121.3
55	Faces 20C	1989	アクリル・カンヴァス	152.0×121.4
56	Faces 71	1989	アクリル・カンヴァス	135.9×121.4
57	Faces 20B	1989	アクリル・カンヴァス	127.1× 96.4
58	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
59	Faces 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
60	Faces 20A	1989	アクリル・カンヴァス	127.0× 96.3
61	Faces 15	1989	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.5
62	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	130.4× 97.2
63	Faces 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
64	Faces 20D	1989	アクリル・カンヴァス	126.0× 90.8
65	二人の裸婦と一つの顔	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
66	裸婦9 顔15 鳥2	1990	アクリル・カンヴァス	130.5× 97.1

6 ティンガティンガ

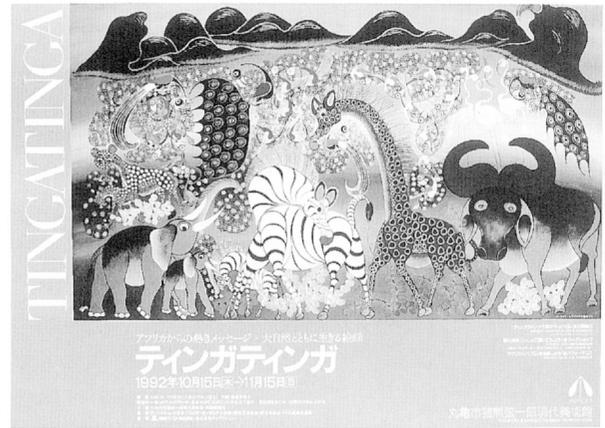
アフリカからの熱きメッセージ・
大自然とともに生きる絵画

会期 1992年10月15日(木)~11月15日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 四国新聞社

後援 ティンガティンガ協会(TACS), タンザニア大使館
国際交流基金, 西日本放送, NHK高松放送局

協賛 関西ペイント株式会社, 株式会社アイアンドビー



ティンガティンガ絵画はタンザニアでE.S.ティンガティンガによって創始され、その特徴は60cm四方のハードボードにエナメルペイントで表現される。作品は鮮やかな色彩、流麗なフォルム、対象物がはみだすことのない完結する空間など独特なスタイルを持ち、動物・鳥・村人・妖怪などをユーモラスな視点で捉えるものである。

展覧会ではアフリカ現代美術の一潮流とも言えるティンガティンガ派の作家達の作品約100点とその中で現在最も活躍しているジャファリー・アウシとアブドル・ムクーラが初めて挑戦した大壁画(1.6×10m)を展示するとともに、両氏を招いて制作過程の公開を併せて紹介した。



制作物 パンフレット (子ども対象)

関連企画

公開制作

10月15日(木)~18日(日) ティンガティンガ作家がやってくる!
作家 ジャファリー/ムクーラ
場所 美術館ゲートプラザ

ワークショップ

10月17日(土)・18日(日) 君も挑戦、いっしょに描いてみよう!
場所 美術館3階カスケードプラザ
参加者数 120人

パフォーマンス

10月18日(日) アフリカン・リズムを体感しよう!
出演 B.B. モフラン・トリオ
場所 美術館ゲートプラザ
参加者数 600人

入場者数 14,075人

7 猪熊弦一郎卒寿記念展 心友イサム・ノグチとともに

会 期 1992年11月23日(月・祝)～1993年3月28日(日)

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

四国新聞社、西日本放送

後 援 香川県教育委員会、NHK高松放送局

瀬戸内海放送

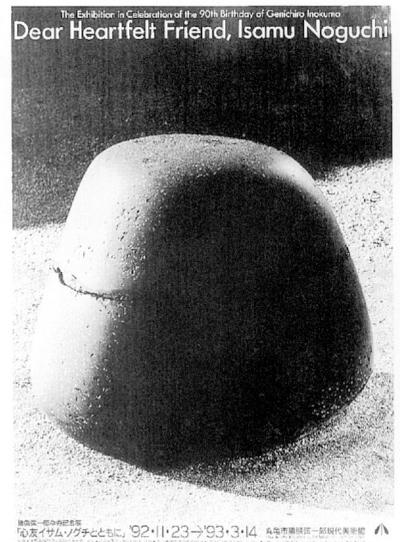
協 力 イサム・ノグチ財団(ニューヨーク)

ノグチ財団設立準備委員会

イサム・ノグチは、日本とアメリカを代表する世界的な彫刻家であるが、彼の作品は彫刻という分野に留まることなく、パリ・ユネスコ本部の「日本庭園」に代表される庭園設計、マーサ・グラハム舞踏団のための舞台装置、さらに照明器具「あかり」シリーズのデザインなど幅広い分野に及んでいる。なかでも晩年香川県の牟礼町にアトリエを構えて取り組んだ石の彫刻は彼の芸術の神髄であり到達点であったと言える。

本展は1950年以来イサム・ノグチと旧交を温め互いの芸術を敬愛してきた猪熊弦一郎が牟礼のアトリエの作品を自ら選びディスプレイしたものである。猪熊弦一郎は、展覧会の開催にあたり次のような言葉を残している。

「この展覧会では、イサムがいかに自然の中に気楽に自分を置いていたか、そして、その中にある自然そのものの魂をいかに愛したか、作ることよりも見えない石の眼を開き、語ることの出来なかった石の声を引き出すことに一生を懸けたイサムの真の姿を見ていただきたい」



関連企画

座談会

3月7日(日) 「地球人イサム・ノグチを語る」

講 師 小倉 忠夫 (名古屋ボストン美術館準備委員会常任顧問)

酒井 忠康 (神奈川県立近代美術館長)

中原 祐介 (美術評論家)

司 会 小川太一郎 (四国新聞社事業本部長)

聴講者数 200人

※会期は予定より2週間延長された。

入場者数 34,187人

作品リスト

番号	作品名	作家名	制作年	材質	サイズ	所蔵
1	グレゴリー	イサム・ノグチ	1945-69	ブロンズ	168.7× 39.3× 50.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
2	不思議な鳥	イサム・ノグチ	1945-72	アルミニウム	143.8× 56.3× 50.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
3	種子	イサム・ノグチ	1946	ブロンズ	60.0× 30.0× 31.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
4	化身	イサム・ノグチ	1947	ブロンズ	195.0× 82.5× 60.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
5	広島原爆慰霊碑	イサム・ノグチ	1952-82	玄武岩	51.0× 153.0× 80.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
6	死すべき運命	イサム・ノグチ	1959-62	ブロンズ	190.5× 50.8× 45.7	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
7	不死鳥 2	イサム・ノグチ	1962	スウェーデン産 花崗岩	38.0× 111.0× 25.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
8	孤独	イサム・ノグチ	1962	ブロンズ	189.4× 29.4× 29.4	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
9	住人	イサム・ノグチ	1962	ブロンズ	135.0× 37.5× 41.9	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
10	通霊の石	イサム・ノグチ	1962	ブロンズ・ アルミニウム	134.6× 139.7× 35.6	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
11	無言の歩み 2	イサム・ノグチ	1974	スウェーデン産 花崗岩	83.0× 70.0× 170.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
12	古代	イサム・ノグチ	1981-83	玄武岩	40.0× 40.0× 221.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
13	無題	イサム・ノグチ	1982-83	玄武岩	50.0× 75.0× 57.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
14	屈折 (未完成)	イサム・ノグチ	1983	玄武岩	25.0× 28.0× 85.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
15	目覚め	イサム・ノグチ	1983-86	玄武岩	44.0× 33.0× 184.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
16	おんな	イサム・ノグチ	1984	御影産花崗岩	66.0× 95.0× 50.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
17	たんぼ	イサム・ノグチ	1984	庵治産花崗岩	70.0× 130.0× 10.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
18	フロアーロック	イサム・ノグチ	1985	玄武岩	87.0× 80.0× 60.5(右) 112.5× 70.0× 65.0(左)	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
19	無題	イサム・ノグチ	1986	スウェーデン産 花崗岩	67.0× 67.0× 60.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
20	無題	イサム・ノグチ	1986	万成産花崗岩	100.0× 100.0× 44.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
21	少女、少年と速やかに	イサム・ノグチ	1986	玄武岩	58.0× 57.0× 180.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
22	無限のらせん 2	イサム・ノグチ	1987	庵治産・ ブラジル産花崗岩	30.0× 30.0× 481.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
23	無題	イサム・ノグチ	1987	サヌカイト	30.0× 80.0× 43.5	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)

番号	作品名	作家名	制作年	材質	サイズ	所蔵
24	無題	イサム・ノグチ	1987	玄武岩	32.0× 85.5× 87.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
25	無題	イサム・ノグチ	1987	インド産花崗岩	50.0×110.0×108.5	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
26	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1987-	インド産花崗岩	28.5× 68.5× 81.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
27	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1987-	インド産花崗岩	62.0× 70.0×117.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
28	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1987-	玄武岩	56.0× 63.0× 90.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
29	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1987-	玄武岩	53.0× 57.0×180.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
30	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1987-	玄武岩	25.5× 84.0× 90.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
31	無限の連結 (未完成)	イサム・ノグチ	1988-	スウェーデン産 赤色花崗岩	50.0× 50.0×220.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
32	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1988-	庵治産花崗岩	70.0× 75.0× 30.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
33	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1988-	玄武岩	65.0×104.0× 70.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
34	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1988-	玄武岩	23.0×105.0× 84.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
35	無題 (未完成)	イサム・ノグチ	1988-	玄武岩	70.0× 76.0×212.5	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
36	真夜中の太陽	イサム・ノグチ	1989	スウェーデン産 赤色黒色花崗岩	210.0×210.0× 30.0	イサム・ノグチ財団 (ニューヨーク)
37	自然石A			玄武岩	66.0×150.0× 72.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
38	自然石B			インド産花崗岩	70.0×115.0×128.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
39	自然石C			玄武岩	90.0× 85.5× 95.0	イサム・ノグチ日本 財団設立準備室
40	黄色の星座	猪熊 弦一郎	1986	アクリル・カンヴァス	182.0×152.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
41	通信衛星	猪熊 弦一郎	1986	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
42	太陽は待つて居る	猪熊 弦一郎	1987	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
43	ポートレイトの会話	猪熊 弦一郎	1988	アクリル・カンヴァス	194.0×130.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
44	太陽と原始鳥	猪熊 弦一郎	1988	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
45	三つの言葉	猪熊 弦一郎	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
46	二人のヴィーナス	猪熊 弦一郎	1989	アクリル・カンヴァス	130.4× 97.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館

番号	作品名	作家名	制作年	材質	サイズ	所蔵
47	二人の裸婦ファンタジア	猪熊 弦一郎	1989	アクリル・カンヴァス	121.5×101.5	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
48	建築と裸婦	猪熊 弦一郎	1990	アクリル・カンヴァス	126.5× 96.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
49	鳥とヴィーナス	猪熊 弦一郎	1990	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
50	夜と顔	猪熊 弦一郎	1990	アクリル・カンヴァス	121.3×101.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
51	手の残した言葉	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	389.0×259.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
52	顔 犬 鳥	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
53	黒鳥の休日	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	127.0× 92.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
54	裸子1 顔40 鳥6	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	162.0×131.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
55	裸子2 顔6 手2 鳥1	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
56	裸子1 顔13 鳥2	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	127.0× 96.2	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
57	裸子と動物達のホリデー	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	127.0× 96.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
58	仮面の歌	猪熊 弦一郎	1991	アクリル・カンヴァス	150.0×122.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
59	ロボット 顔 犬	猪熊 弦一郎	1992	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
60	顔達の祭日	猪熊 弦一郎	1992	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館
61	鳥 犬 顔 隣人	猪熊 弦一郎	1992	アクリル・カンヴァス	194.0×130.0	丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館

8 日本の抽象 村井正誠展 1965年以後

ヒューマニズムの色面構成

会期 1993年4月10日(土)～5月9日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

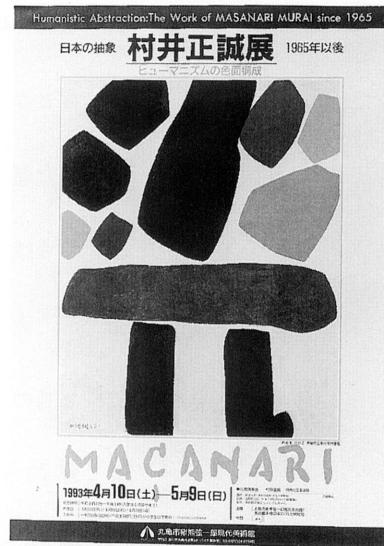
美術館連絡協議会

読売新聞社

協賛 花王株式会社

村井正誠は1930年代、鮮烈な色彩と大胆な構成による作品を制作していたが、1960年代初頭にはきわめて実験的ともいえる黒一色による作品を次々に発表する。やがて1965年を境に色彩が復活し、それは前時代の黒一色の構成による成果とも相まって、平面における抽象表現の深まりが見られるようになる。それらの多くの作品は人間をモチーフとし、人間の形態やその営みを、大きな色面と大胆な描線によって構成しているものであり、一貫して“人間”をモチーフあるいはテーマとする姿勢には、確固たるヒューマニズムの精神が反映されている。

平面における抽象表現を60年あまりにわたって探究し続けた村井正誠。本展覧会は日本の抽象絵画のパイオニアである彼の1965年から1992年にいたる近作により構成したものである。



関連企画

講演会

4月11日(日) 「村井正誠—円熟に至る道程」

講師 針生 一郎 (美術評論家、和光大学教授)

聴講者数 75人

入場者数 4,076人

9 猪熊弦一郎展

写実から抽象への道程

会期 1993年5月13日(木)～6月26日(土)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

多くの観覧者が興味を持つのが写実から抽象へと大きく変容した猪熊弦一郎の画風の変化であろう。どのように変容したのか、作品を追って検証してみようというのが本展のねらいである。

猪熊弦一郎は1955年にニューヨーク経由で二度目のパリに向かう。この旅は猪熊に劇的な変化をもたらすことになった。猪熊はニューヨークの街に魅せられそのまま居住することになるが、戦後のニューヨークはパリに代わって芸術の中心地になっていた。抽象表現主義の嵐が吹き荒れる、その中に飛び込んだわけである。だが、アメリカに着いた頃は日本的なモチーフを描いているのである。1956年の『松1』『埴輪1』などだ。やがて猪熊は魅せられたニューヨークの都市そのものを抽象風に描くことで新しい自分の絵画を創り出すことに成功する。そこにはかつて写実的な絵画を描いていた猪熊の姿はなかった。猪熊はこの展覧会が始まって4日後急逝。本展が猪熊弦一郎が当館で直接指揮をとった最後の展覧会になった。



入場者数 4,692人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
2	雪の道	1923	油彩・板	45.5× 45.6
3	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
4	コンポジション	1930	油彩・カンヴァス	181.7×257.0
5	画室	1932	油彩・カンヴァス	180.3×290.0
6	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0×290.0
7	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1×288.7
8	二人	1936	油彩・カンヴァス	194.0×130.0
9	昼	1937	油彩・カンヴァス	193.5×130.5
10	黄昏	1937	油彩・カンヴァス	191.5×129.0
11	夜	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5
12	地下鉄の中 (巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
13	三人娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
14	自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	73.0× 60.0
15	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
16	フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
17	K君の像	1939	油彩・カンヴァス	80.5× 64.4
18	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
19	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
20	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
21	娘と葉	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0
22	ヴィーナス誕生 A	1940	油彩・カンヴァス	79.5× 64.5
23	ヴィーナス誕生 B	1940	油彩・カンヴァス	80.5× 64.0
24	ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス	80.6× 60.4
25	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0× 61.0
26	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
27	静寂	1956	油彩・カンヴァス	157.0× 91.5
28	松 1	1956	油彩・カンヴァス	178.0× 91.2
29	埴輪 1	1956	油彩・カンヴァス	106.4×175.5
30	庭	1956	油彩・カンヴァス	175.3×106.7
31	極地設定 No. 1	1958	油彩・カンヴァス	176.5×205.3
32	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5×180.0
33	スネーク ライン	1964	油彩・カンヴァス	126.7×203.5
34	混乱と秩序 A	1964	油彩・カンヴァス	203.1×177.8
35	都市配分	1966	油彩・カンヴァス	194.0×112.4
36	入口 No. 2	1966	アクリル・カンヴァス	152.5×127.0
37	City Green Light	1967	アクリル・カンヴァス	152.7×127.3
38	都市計画 黄 No. 1	1968	アクリル・カンヴァス	152.0×153.0
39	都市計画 黄 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.4×152.7
40	都市 緑 No. 1	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0

番号	作品名	制作年	材質	サイズ
41	都市 緑 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
42	都市 緑 No. 3	1968	アクリル・カンヴァス	202.8×152.4
43	都市 緑 No. 4	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×152.5
44	都市 青 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
45	二つの岸 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
46	二つの岸 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.7×178.0
47	二つの岸 C	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
48	二つの岸 D	1970	アクリル・カンヴァス	203.7×177.8
49	水辺 A	1970	アクリル・カンヴァス	203.3×178.0
50	水辺 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
51	風景 B Y	1972	アクリル・カンヴァス	203.5×178.8
52	風景 D W	1972	アクリル・カンヴァス	203.6×178.0
53	風景 E V	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
54	風景 G T	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
55	風景	1972	アクリル・カンヴァス	178.0×202.5
56	風景 E	1975	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3

10 猪熊弦一郎表紙絵展

「小説新潮」40年間の表紙を飾った
顔たち

会期 1993年7月4日(日)～8月29日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

共催 新潮社、四国新聞社

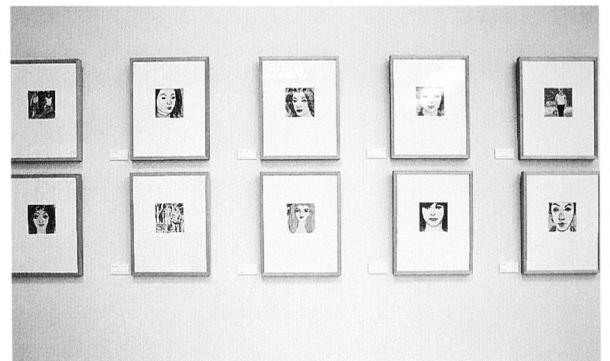
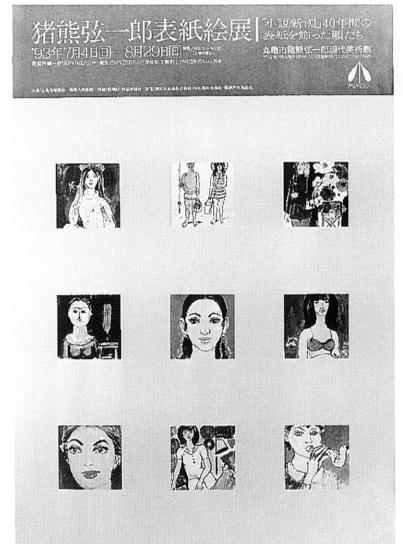
後援 西日本放送、NHK高松放送局、瀬戸内海放送

猪熊弦一郎は絵画以外のジャンルにおいてもその才能を發揮している。

株式会社三越が使用している白地にピンク色で石をデザインした包装紙「花ひらく」は誰もが一度は目にしたことがあるのではないだろうか。これは猪熊が昭和25年にデザインしたものである。東京上野駅コンコースにある壁画「自由」、慶応義塾大学学生ホール壁画「デモクラシー」などの壁画制作のほか家具デザインも手がけている。「表紙絵は私の40年間の月記である」と、猪熊は表紙絵をこう説明している。定期的に発表される作品からは作家の内面的な変化を伺い知ることができる。40年という長い歳月をかけて描かれたこれらの作品を一望すると、当初は風物詩を取り込んだ身近のスケッチであったのが、晩年は女性の顔のコンポジションへと猪熊の興味の対象もまた時代の流れとともに変化していく様子が伺える。

本展では、表紙絵という本来の絵画作品とは異なる角度から猪熊芸術を紹介した。

制作物 パンフレット『表紙のことは』



入場者数 9,007人

作品リスト

番号	作 品 名	掲載年・月	材 質	サイズ
1	黒い髪	1950. 5	水彩・紙	15.6× 11.8
2	やさしい花	1950.12	水彩・紙	15.5× 12.0
3	自転車と娘	1954. 3	水彩・紙	15.0× 14.2
4	娘と鳩笛	1954.11	水彩・紙	15.0× 14.7
5	ヴァイオリンを持つ女	1955.12	水彩・紙	15.0× 14.7
6	三月の顔	1956. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
7	グリニッチの二人	1956.11	水彩・紙	15.2× 14.8
8	レボソ	1957. 3	水彩・紙	15.0× 13.8
9	砂浜の二人	1957. 7	水彩・紙	15.2× 14.8
10	街角	1958. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
11	買物	1958. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
12	黄金のクリスマスツリー	1958.12	水彩・紙	15.0× 14.7
13	うらじろ	1959. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
14	カナダの毛皮	1959. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
15	楽しい風景	1959. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
16	犬の散歩	1959. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
17	海女	1959. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
18	指	1959.10	水彩・紙	15.0× 14.7
19	三宝重ね餅	1960. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
20	タクシー	1960. 5	水彩・紙	15.8× 14.5
21	犬と街	1960. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
22	プロヴィンスタウン	1960. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
23	森の食事	1960. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
24	赤いパイプ	1960.11	水彩・紙	15.0× 14.7
25	二人	1961. 3	水彩・紙	15.0× 14.4
26	新聞屋のおやじ	1961. 9	水彩・紙	15.5× 15.0
27	新春の雪山	1962. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
28	アンティークショップ	1962. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
29	ダイエット	1962. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
30	煙草	1962. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
31	柵	1962. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
32	ビキニ	1962. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
33	眼	1962.11	水彩・紙	15.0× 14.7
34	クリスマスツリー	1962.12	水彩・紙	15.0× 14.7
35	座す	1963. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
36	スケッチ	1963. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
37	眼鏡	1963. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
38	イースターパレード	1963. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
39	デザイン	1963. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
40	ブルージン	1963. 6	水彩・紙	15.0× 14.7

番号	作品名	掲載年・月	材質	サイズ
41	休暇の二人	1963. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
42	素人釣	1963. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
43	美しき点景	1963. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
44	犬	1963.11	水彩・紙	15.0× 14.7
45	クリスマスツリー	1963.12	水彩・紙	15.0× 14.7
46	かきぞめ	1964. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
47	会話	1964. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
48	着物のモデル	1964. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
49	紙袋	1964. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
50	不詳	1964. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
51	ムームー	1964. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
52	ミミズ	1964. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
53	籠	1964. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
54	茶	1965. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
55	減食美	1965. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
56	二匹の小魚	1965. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
57	芝生	1965. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
58	浪花節	1965. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
59	アイスクリーム	1965. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
60	和服	1965.10	水彩・紙	15.0× 14.7
61	赤ちゃん	1965.11	水彩・紙	15.0× 14.7
62	大晦日	1965.12	水彩・紙	15.0× 14.7
63	不詳	1966. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
64	二人手をとる	1966. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
65	歌謡曲	1966. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
66	身長	1966. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
67	五月の歌	1966. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
68	可愛い思いつき	1966. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
69	七月の馬	1966. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
70	夏の皮膚	1966. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
71	スカート	1966. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
72	こたつ	1966.11	水彩・紙	15.0× 14.7
73	クリスマスツリー	1966.12	水彩・紙	15.0× 14.7
74	日本の元旦	1967. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
75	モッズ族	1967. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
76	日本人の顔	1967. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
77	立話	1967. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
78	ヴァカンス	1967. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
79	ポップカラー	1967. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
80	眼鏡	1967. 9	水彩・紙	15.0× 14.7

番号	作品名	掲載年・月	材質	サイズ
81	流行色	1967.10	水彩・紙	15.0× 14.7
82	顔	1967.11	水彩・紙	15.0× 14.7
83	クリスマスツリー	1967.12	水彩・紙	15.0× 14.7
84	かきぞめ	1968. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
85	犬	1968. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
86	若人の姿	1968. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
87	裸足	1968. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
88	色彩の脚	1968. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
89	ヒゲ	1968. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
90	インドスタイル	1968.10	水彩・紙	15.0× 14.7
91	写真機	1968.11	水彩・紙	15.0× 14.7
92	紙の花	1968.12	水彩・紙	15.0× 14.7
93	肩かけ	1969. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
94	背の子供	1969. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
95	髪	1969. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
96	顔	1969. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
97	乳母車	1969. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
98	乳母車 (習作)		水彩・紙	15.0× 14.7
99	ビキニスタイルと花	1969. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
100	日本の若き顔	1969. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
101	靴	1969.10	水彩・紙	15.0× 14.7
102	髪	1969.11	水彩・紙	15.0× 14.7
103	正月のももわれ	1970. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
104	日本の顔と着物	1970. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
105	丸い顔	1970. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
106	五月の髪	1970. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
107	眼	1970. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
108	鉢巻	1970. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
109	髪	1970. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
110	髪の色	1970.10	水彩・紙	15.0× 14.7
111	メキシコの毛糸	1970.11	水彩・紙	15.5× 15.0
112	クリスマスタイム	1970.12	水彩・紙	15.0× 14.7
113	クリスマスタイム (習作)		水彩・紙	15.0× 14.7
114	シメナワ	1971. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
115	髪	1971. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
116	モップヘア	1971. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
117	五月の顔	1971. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
118	首	1971. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
119	若人の髪	1971. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
120	短い髪	1971.12	水彩・紙	15.0× 14.7

番号	作品名	掲載年・月	材質	サイズ
121	二人	1972. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
122	正面の顔	1972. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
123	サングラス	1972. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
124	表紙	1972. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
125	クリスマスタイム	1972.12	水彩・紙	15.0× 14.7
126	元旦の女性	1973. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
127	金色の髪	1973. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
128	横顔	1973. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
129	女性短髪	1973. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
130	人形のような顔	1973. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
131	アゴの小さな女	1973. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
132	二人	1973. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
133	ポコポコシューズ	1973.10	水彩・紙	15.0× 14.7
134	日本人の顔	1973.11	水彩・紙	15.0× 14.7
135	分けた髪	1974. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
136	顔を描く時	1974. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
137	眼の開いた顔	1974.10	水彩・紙	15.0× 14.7
138	一寸気取った顔	1974.11	水彩・紙	15.0× 14.7
139	赤いベレー	1974.12	水彩・紙	15.0× 14.7
140	斜めの構図	1975. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
141	描く心	1975. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
142	ホノルルの女性	1975. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
143	眼	1975. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
144	角な顔	1975. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
145	グリークの顔	1975. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
146	ボーイッシュな髪	1975. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
147	赤毛の頭	1975. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
148	鼻	1975. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
149	髪	1975.10	水彩・紙	15.0× 14.7
150	眉	1975.11	水彩・紙	15.0× 14.7
151	プロフィール	1975.12	水彩・紙	15.0× 14.7
152	金色の髪	1977. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
153	西洋風な眼	1977. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
154	生えざわ	1977. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
155	ハワイの娘	1977. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
156	褐色の髪	1977. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
157	顔のバランス	1977. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
158	顔のむつかしさ	1977. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
159	首	1977. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
160	四角の中の顔	1977. 9	水彩・紙	15.0× 14.7

番号	作 品 名	掲載年・月	材 質	サイズ
161	眉を無くした顔	1977. 10	水彩・紙	15.0× 14.7
162	静かなる顔	1977. 11	水彩・紙	15.0× 14.7
163	日本的な顔	1977. 12	水彩・紙	15.0× 14.7
164	髪の色	1978. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
165	丸い顔	1978. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
166	スケッチ	1978. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
167	健康の色	1978. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
168	イメージチェンジ	1978. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
169	顔の色	1978. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
170	太い眉	1978. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
171	おかっぱ	1978. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
172	日本の顔	1978. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
173	赤いバック	1978. 10	水彩・紙	15.0× 14.7
174	ウィッグ	1978. 11	水彩・紙	15.0× 14.7
175	静かなる顔	1978. 12	水彩・紙	15.0× 14.7
176	金色の正月	1979. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
177	眉のない顔	1979. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
178	明るいい心	1979. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
179	プロポーション	1979. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
180	高校生	1979. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
181	ミックス	1979. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
182	首	1979. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
183	愛らしい顔	1979. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
184	大らかな顔	1979. 10	水彩・紙	15.0× 14.7
185	顔の中の静物	1979. 11	水彩・紙	15.0× 14.7
186	自由な顔	1979. 12	水彩・紙	15.0× 14.7
187	髪遊び	1980. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
188	引きつめた髪	1980. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
189	色の不思議	1980. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
190	唇	1980. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
191	眼	1980. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
192	画面の中の顔	1980. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
193	鼻	1980. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
194	東洋の顔	1980. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
195	眉	1980. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
196	白い顔	1980. 10	水彩・紙	15.0× 14.7
197	髪	1980. 11	水彩・紙	15.0× 14.7
198	コンポジション	1980. 12	水彩・紙	15.0× 14.7
199	正月からの顔	1981. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
200	黒い髪	1981. 2	水彩・紙	15.0× 14.7

番号	作 品 名	掲載年・月	材 質	サイズ
201	顔と眼	1981. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
202	やさしい顔	1981. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
203	丸い眼丸い顔	1981. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
204	額と髪	1981. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
205	ブルメリア	1981. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
206	顔の造作	1981. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
207	金髪の娘	1981. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
208	冷たいような顔	1981.10	水彩・紙	15.0× 14.7
209	朝出て来る顔	1981.11	水彩・紙	15.0× 14.7
210	優等生	1981.12	水彩・紙	15.0× 14.7
211	シンメトリー	1982. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
212	感じのいい顔	1982. 2	水彩・紙	15.0× 14.7
213	長い顔	1982. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
214	自然な姿	1982. 4	水彩・紙	15.0× 14.7
215	口紅	1982. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
216	花	1982. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
217	赤い髪	1982. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
218	新鮮な顔	1982. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
219	白い長い顔	1982.10	水彩・紙	15.0× 14.7
220	三つの色	1982.11	水彩・紙	15.0× 14.7
221	眉	1983. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
222	正面の顔	1983. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
223	フラダンスの娘達	1983. 6	水彩・紙	15.0× 14.7
224	日本の顔	1983. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
225	タピストリーの布団	1983. 8	水彩・紙	15.0× 14.7
226	赤くなった顔	1983. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
227	水にぬれたような髪	1983.10	水彩・紙	15.0× 14.7
228	おかっぱ	1983.11	水彩・紙	15.0× 14.7
229	帽子の娘	1983.12	水彩・紙	15.0× 14.7
230	焼き上げた顔	1984. 1	水彩・紙	15.0× 14.7
231	顔を生々させる	1984. 3	水彩・紙	15.0× 14.7
232	髪	1984. 5	水彩・紙	15.0× 14.7
233	シンデレラの靴	1984. 7	水彩・紙	15.0× 14.7
234	眉	1984. 9	水彩・紙	15.0× 14.7
235	正面の顔	1984.11	水彩・紙	15.0× 14.7
236	眼の大きな娘	1984.12	水彩・紙	15.0× 14.7
237	顔 10	1988	陶板	72.3× 69.5
238	裸子 顔1	1988	陶板	71.7× 68.3
239	顔 8	1988	陶板	62.4× 80.3
240	裸子と馬	1988	陶板	72.5× 69.2

11 猪熊弦一郎 素描展

会期 1993年9月3日(金)~10月11日(月・祝)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

共催 四国新聞社

後援 西日本放送, NHK高松放送局, 瀬戸内海放送

東京美術学校時代、猪熊弦一郎は選択課程で藤島武二の教室を選んだ。藤島教室は当時の学生たちに変な人気であった。しかし藤島の学生に対する言葉はいつも決まっていて、「君たちにはデッサンがない」の一点張りであったという。この言葉は猪熊にとって生涯の大きな課題となった。「デッサンとは線で正確に物を描くこと、すなわち『ものそのもの』を描くのではなく、『そのこと』を描くのだということが分かった」後年になって猪熊は藤島の言葉をこのように語っている。素描の習練は画家にとって最も重要なことであり、猪熊が最も大切にしていたことである。実際、猪熊の遺品には膨大な数のスケッチが含まれていた。本展では、鉛筆、木炭、パステル、インクなどによって描かれた130点の素描を通して、猪熊芸術の原点を紹介した。

制作物 パンフレット (子ども対象)



入場者数 6,457人



影武者 10歳頃



花



婦人像



椅子にすわる女



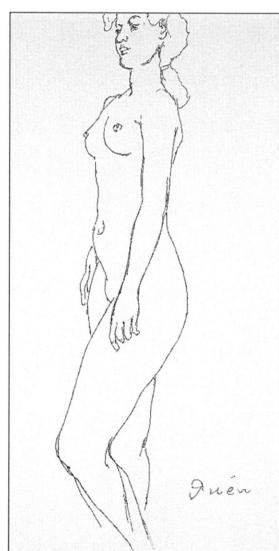
座る男



猫



フランス婦人像



裸婦

12 藤島武二と 9人の若き洋画家たち

会期 1993年10月17日(日)～1993年12月19日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

共催 四国新聞社, NHK高松放送局

後援 西日本放送, 瀬戸内海放送

昭和10年の帝展の改組をめぐる画壇の紛糾の中、これに反発した9人の旧帝展出身の若手画家たち（猪熊弦一郎、伊勢正義、内田巖、小磯良平、佐藤敬、三田康、鈴木誠、中西利雄、脇田和）が『反アカデミックの美術精神に於いて官展に関与せず』と唱えて新制作派協会を設立した。纯粹芸術を希求し、自らの芸術的信念に忠実であらうとした彼らの主張は、当時のジャーナリズムにも好意的に迎えられ、また彼らのモダンな画風は「新感覚派」、「新生活派」などと呼ばれ高く評価された。彼ら9人の精神的な支えになったのが師藤島武二である。藤島は彼らの理念に賛同し、同会に第1回展から亡くなる直前の第8回展まで特別出品を続け、若い彼らを励ました。本展では、美術館の開館2周年を契機に藤島武二と9人の創立会員の現在もなお新鮮さを感じる作品を展覧し、師藤島武二と弟子たちの深い絆と新制作派協会の設立の意義を再考した。

刊行物 図録『藤島武二と9人の若き洋画家たち』



入場者数 11,618人

作品リスト

番号	作 品 名	作家名	制作年	材質	サイズ	所蔵
1	セーヌ河畔	藤島 武二	1906-1907	油彩・カンヴァス	37.5× 53.1	三重県立美術館
2	レマン湖	藤島 武二	1908	油彩・板	23.5× 33.0	三重県立美術館
3	イタリア婦人像	藤島 武二	1908-1909	油彩・カンヴァス	64.5× 52.8	東京芸術大学芸術資料館
4	花籠	藤島 武二	1913	油彩・カンヴァス	63.0× 41.0	京都国立近代美術館
5	淡路島遠望	藤島 武二	1929	油彩・カンヴァス	53.4× 73.0	石橋財団ブリヂストン美術館
6	浪（大洗）	藤島 武二	1931	油彩・カンヴァス	33.3× 45.6	石橋財団ブリヂストン美術館
7	港の朝陽	藤島 武二	1935	油彩・カンヴァス	44.5× 59.5	東京国立近代美術館
8	琉球の舞妓	藤島 武二	1936	パステル・紙	36.8× 28.0	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
9	耕到天	藤島 武二	1938	油彩・カンヴァス	91.0× 97.5	大原美術館
10	中国風景	藤島 武二	1938	油彩・カンヴァス	73.0×100.0	鹿児島市立美術館
11	キャバレー	伊勢 正義	1936	油彩・カンヴァス	181.0×303.0	小坂町立総合博物館郷土館
12	バルコン	伊勢 正義	1936	油彩・カンヴァス	181.0×303.0	小坂町立総合博物館郷土館
13	リュグビー	伊勢 正義	1937	油彩・カンヴァス	194.0×240.0	小坂町立総合博物館郷土館
14	赤い上衣の女	伊勢 正義	1937頃	油彩・カンヴァス	162.5×112.5	世田谷美術館
15	早春	伊勢 正義	1939	油彩・カンヴァス	181.0×230.0	小坂町立総合博物館郷土館
16	冬	伊勢 正義	1939	油彩・カンヴァス	162.0×130.0	秋田県立博物館
17	二人	猪熊 弦一郎	1936	油彩・カンヴァス	194.0×130.0	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
18	馬と裸婦	猪熊 弦一郎	1936	油彩・カンヴァス	180.0×270.0	愛知県美術館
19	昼	猪熊 弦一郎	1937	油彩・カンヴァス	193.5×130.5	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
20	夜	猪熊 弦一郎	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
21	黄昏	猪熊 弦一郎	1937	油彩・カンヴァス	191.5×129.0	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
22	港	内田 巖	1934	油彩・カンヴァス	182.0×226.0	神奈川県立近代美術館
23	少女	内田 巖	1937	油彩・カンヴァス	62.6× 50.4	個人蔵
24	岩	内田 巖	1938	油彩・カンヴァス	59.4× 89.3	個人蔵
25	岩	内田 巖	1941	油彩・カンヴァス	192.0×128.8	早稲田大学法学部
26	肩掛けの女	小磯 良平	1929	油彩・カンヴァス	115.0× 71.5	東京国立近代美術館
27	彼の休息	小磯 良平	1927	油彩・カンヴァス	145.5×113.5	東京芸術大学芸術資料館
28	着物の女	小磯 良平	1936	油彩・カンヴァス	90.9× 72.7	神戸市立小磯記念美術館
29	練習場の踊り子達	小磯 良平	1938	油彩・カンヴァス	191.0×180.0	東京国立近代美術館
30	二人の少女	小磯 良平	1946	油彩・カンヴァス	79.4× 60.0	神戸市立小磯記念美術館
31	K夫人像	小磯 良平	1947	油彩・カンヴァス	80.4× 65.5	神戸市立小磯記念美術館
32	K夫人像ポートレイト	小磯 良平	1950	油彩・カンヴァス	35.2× 26.9	神戸市立小磯記念美術館
33	着物婦人像	小磯 良平	1966	油彩・カンヴァス	80.5× 80.0	
34	父親の肖像	小磯 良平	不詳	油彩・カンヴァス	60.1× 45.1	神戸市立小磯記念美術館
35	窓際	佐藤 敬	1931	油彩・カンヴァス	162.0×114.0	大分県立芸術会館
36	レ・クルン（道化者）	佐藤 敬	1932	油彩・カンヴァス	162.0×130.0	大分県立芸術会館
37	母なる日を待つ美子	佐藤 敬	1935	油彩・カンヴァス	90.9× 72.7	個人蔵
38	蝉の羽（バリシタワック）	佐藤 敬	1942	油彩・カンヴァス	72.7× 55.0	個人蔵
39	MON AMIE	佐藤 敬	1947	油彩・カンヴァス	72.7× 90.9	個人蔵
40	カルメンお美（婦人像）	佐藤 敬	1948	油彩・カンヴァス	72.7× 55.0	個人蔵

番号	作 品 名	作家名	制作年	材質	サイズ	所蔵
41	人物B	三田 康	1953	油彩・カンヴァス	99.2× 71.9	個人蔵
42	あんずの里	三田 康	1960頃	油彩・カンヴァス	64.0× 89.2	個人蔵
43	バレリーナ	三田 康	1965	油彩・カンヴァス	115.6× 79.0	個人蔵
44	老人	三田 康	1967	油彩・カンヴァス	71.0× 59.4	個人蔵
45	室内群像	鈴木 誠	1930	油彩・カンヴァス	144.3×176.2	目黒区美術館
46	横臥裸婦	鈴木 誠	1938	油彩・カンヴァス	130.3×162.1	愛知県美術館
47	浴女	鈴木 誠	1939	油彩・カンヴァス	115.5× 71.5	個人蔵
48	アイロンかけ	鈴木 誠	1943	油彩・カンヴァス	90.9× 72.7	岐阜県美術館
49	カナリアと子供	鈴木 誠	1955	油彩・カンヴァス	90.9× 72.7	岐阜県美術館
50	裸体と静物	鈴木 誠	1955	油彩・カンヴァス	91.0×116.7	岐阜県美術館
51	黄色い首巻(人物)	中西 利雄	1930	水彩・紙	64.0× 51.0	茨城県近代美術館
52	南仏風景	中西 利雄	1930	水彩・紙	54.5× 73.5	千葉県立美術館
53	花	中西 利雄	1932	水彩・紙	75.0× 55.0	茨城県近代美術館
54	夏の海岸	中西 利雄	1936	水彩・紙	73.0×100.0	東京国立近代美術館
55	港(松山)	中西 利雄	1936	水彩・紙	38.0× 45.5	愛媛県立美術館
56	人物	中西 利雄	1936	水彩・カンヴァス	117.0× 91.0	千葉県立美術館
57	和装	中西 利雄	1937	水彩・紙	54.5× 37.0	茨城県近代美術館
58	人物(和装)	中西 利雄	1937	水彩・紙	62.5× 48.5	呉市立美術館
59	マドモアゼルS嬢	中西 利雄	1938	水彩・紙	62.5× 48.5	広島県立美術館
60	四人の女	中西 利雄	1939	水彩・紙	73.0×100.0	千葉県立美術館
61	白い服の姉妹	中西 利雄	1940	水彩・カンヴァス	100.0× 73.0	呉市立美術館
62	曇り日の離宮と駅	中西 利雄	1947	水彩・紙	55.0× 74.0	千葉県立美術館
63	二人	脇田 和	1942	油彩・カンヴァス	90.9× 72.7	脇田美術館
64	浴室	脇田 和	1949	油彩・カンヴァス	162.1×130.3	脇田美術館
65	魚網	脇田 和	1952	油彩・カンヴァス	116.7× 72.7	福岡市美術館
66	貝殻と鳥	脇田 和	1954	油彩・カンヴァス	145.5×112.2	東京国立近代美術館
67	西瓜と貝殻	脇田 和	1954	油彩・カンヴァス	90.9×116.7	脇田美術館
68	幼児	脇田 和	1954	油彩・厚紙	20.5× 20.5	脇田美術館
69	鳥と横臥する女	脇田 和	1955	油彩・カンヴァス	90.9×116.7	三重県立美術館
70	茨の冠と薔薇の花	脇田 和	1974	油彩・カンヴァス・ コラージュ	112.1×145.5	脇田美術館

13 新制作ミモカ展

会 期 1993年12月25日(土)~1994年 1 月23日(日)

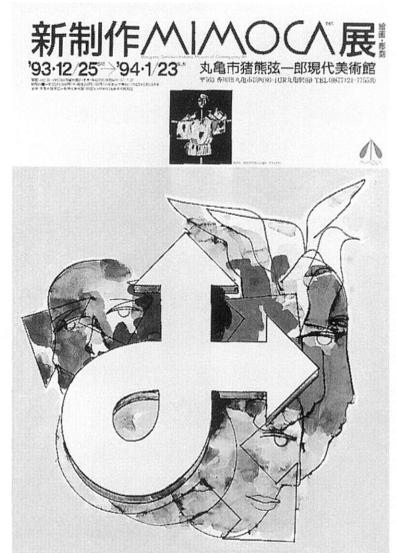
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

本展は、開館2周年記念として、新制作派協会の創立会員と彼らの恩師藤島武二の展覧会『藤島武二と9人の若き洋画家たち』展(93年10月17日~12月19日)の開催に引き継ぎ、創立から57年目を迎えた新制作協会の現在の姿を当館で紹介するために企画された。

『新制作展』は、東京、京都、名古屋、広島で毎年巡回展が行われているものの、この四都市以外で開催されるのは極めてまれ、さらに新制作派協会設立の中心的な存在だった創立会員、猪熊弦一郎の美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館での開催ということもあり、全国から絵画部門88名、彫刻部門15名の作家の出品となった。

戦前、戦後を通じ日本の美術界をリードしてきた、自由で伸びやか、多様な表現の会員たちの絵画、彫刻とともに、猪熊の最後の作品となった、ハワイのアトリエで制作された4点の作品を紹介、質の高い作品が美術館の空間を埋めつくした。



入場者数 **2,655人**

作品リスト

番号	作 品 名	作 家 名	サイズ
1	残照	相原 求一朗	130.0×162.0
2	風の詩	赤穴 宏	160.0×130.0
3	水ふたたび	麻田 浩	145.0×227.0
4	告別	麻生 征子	164.0×300.0
5	桜前線誕生	荒井 茂雄	193.0×130.0
6	閉鎖空間 (2)	有田 守成	180.0×180.0
7	運河のタグボート Enkhuizen	安保 健二	112.0×162.0
8	青と白の窓辺	安保 淑子	162.0×162.0
9	天上の詩 '93	飯田 四郎	149.0×100.0
10	日曜日の運河	石川 滋彦	112.0×145.0
11	こわれた二つの窓 (女のいる風景)	石阪 春生	162.0×194.0
12	録 '93-8	石田 琴次	162.0×162.0
13	漁村片影93-1	伊藤 昌夫	182.0×227.0
14	祭りのあと (A)	糸田 芳雄	130.0×162.0
15	Playing Neutron	糸田 玲子	130.0×194.0
16	もうひとつの時 '93-T	稲垣 敏彦	194.0×194.0
17	カガシの夢	猪熊 弦一郎	121.0×101.5
18	鳥達の遊び	猪熊 弦一郎	151.9×122.0
19	飛ぶ日のよろこび	猪熊 弦一郎	137.3×122.1
20	ダボとカガシ	猪熊 弦一郎	120.8×101.4
21	土の賦 (風立つ)	薄久保 友司	130.0×356.0
22	北の谷間	内田 武夫	112.0×145.0
23	無限の彼方に!	江戸 健	260.0×182.0
24	カッチョの村	大國 章夫	130.0×162.0
25	流れ雲	大里 光春	130.0×162.0
26	庭園・輝	太田 國廣	112.0×162.0
27	信仰の時代Ⅲ アッシジ	太田 久	162.0×162.0
28	浮いた風景	岡崎 紀	194.0×324.0
29	悲しみは石の中にⅡ (レクイエム)	荻 太郎	162.0×162.0
30	エスタンのほとり	尾崎 幸雄	130.0×162.0
31	ひろば	風間 完	52.0× 78.0
32	MOUNT '93. 8	加藤 金一郎	162.0×194.0
33	まつり待つ	加藤 鉦次	181.8×227.3
34	新しい巴里(デフェンス)の小憎らしいアクセサリイ	角 浩	162.0×194.0
35	R	金本 啓子	194.0×162.0
36	作品929	鎌田 正蔵	162.0×112.0
37	楚	神谷 幸子	162.0×162.0
38	旗のユニコーン	亀本 信子	227.0×182.0
39	零度 93-4	木嶋 正吾	180.0×180.0
40	遺されしものへ	木下 和	182.0×350.0

番号	作 品 名	作 家 名	サイズ
41	風- '93	熊沢 淑	181.0×175.0
42	わすれもの	桑田 道夫	228.0×163.0
43	時との対話 '93-A	桑原 佐吉	162.0×194.0
44	師、猪熊弦一郎に捧げる4色の中の巻貝	高津 鐵朗	224.0×182.0
45	街(広場)	児嶋 義一	162.0×112.0
46	ハッピーランドの惨劇3	小林 一彦	182.0×227.0
47	生田中学校(冬景色)	小松 益喜	91.0× 91.0
48	葉っぱと雲	近藤 茂	227.0×182.0
49	森の中II	紺野 五郎	162.0×130.0
50	翔	斎藤 正夫	162.0× 97.0
51	野の王国-物見の塔	佐藤 柳逸	162.0×194.0
52	午後のシティ・タイム	佐野 ぬい	227.0×182.0
53	十月の白馬	柴田 善登	112.0×145.0
54	フレームへの構成-93. A	タウンゼント 順子	194.0×194.0
55	少年回帰	高岸 昇	162.0×162.0
56	樹海菩薩(宇)	田澤 茂	227.0×182.0
57	椅子の詩B	谷上 信博	130.0×162.0
58	Etre (Being)	玉置 正敏	192.0×162.0
59	シュノンソー城	筒井 明	162.0×194.0
60	The Founder '93 新しい出発-I	鶴見 雅夫	162.0×162.0
61	風屋(煉瓦の橋梁)	鶴山 好一	366.0×228.0
62	日光東照宮陽明門	寺戸 恒晴	162.0×162.0
63	富士<夏> 3	中村 貞夫	190.0×227.0
64	火まつり-まつりの始まる頃 No. 2 -	中村 徳守	195.0×324.0
65	暮色の三浦	名柄 禎子	194.0×160.0
66	遊韻	行木 正義	194.0×324.0
67	月映の部屋	鍋島 正一	197.0×290.9
68	山稜 '93-A	成田 真澄	180.0×160.0
69	西夏姫の風	成瀬 光男	170.0×147.0
70	傀儡乃絲・二日月	西岡 泰	162.1×260.6
71	Green Dub World	西田 周司	210.0×300.0
72	記憶の中の街	丹羽 和子	162.0×261.0
73	湿原/湿原の町	野村 昭雄	各112.0×162.0
74	あるメッセージ<廻>	橋本 武	184.0×184.0
75	胡同路辺	張替 眞宏	135.0×175.0
76	RECOLLECTION	蛭田 均	194.0×260.0
77	骨の踊り	深尾 庄介	162.0×194.0
78	生活空間のかたち-トンプ	福島 誠	194.0×292.0
79	遺された仕事場	福島 まゆ子	162.0×162.0
80	A SIGHT	福田 徳樹	194.0×306.0

番号	作 品 名	作 家 名	サイズ
81	チェファルーの海	松浦 安弘	227.0×182.0
82	修学旅行	丸山 正三	130.0×162.0
83	伊太利亚ノート93 (西班牙広場)	宮田 保史	162.0×162.0
84	アッティカの夢	武藤 岩雄	193.9×259.1
85	集積	武藤 博美	227.0×181.0
86	風-遙か	村山 容子	194.0×162.0
87	失題	室田 豊四郎	112.0×145.0
88	花火	安田 巖	146.0×146.0
89	ラビリンス	山口 都	162.1×227.3
90	時空 '93	若松 光一郎	171.0×212.0
91	移り香	脇田 和	171.0×212.0
92	1993夏のアトリエ	渡辺 恂三	194.0×162.0

彫刻部門

番号	作 品 名	作 家 名	サイズ
93	女の子 '93	阿部 誠一	132.0× 45.0× 33.0
94	のびる都市	伊藤 礼太郎	300.0× 70.0× 60.0
95	少女	大桐 國光	21.0× 23.0× 23.0
96	うずくまる美貴	大西 康彦	82.0× 66.0× 65.0
97	青年	大西 康彦	60.0× 20.0× 30.0
98	円と方形の塔	小田 襄	207.0× 56.0× 75.0
99	地花茎	久保 制一	90.0× 65.0× 65.0
100	ハンガリーの農夫	桜井 敏生	30.0× 20.0× 20.0
101	ブラウス	佐藤 忠良	170.0× 68.0× 50.0
102	四本の脚	城田 孝一郎	200.0×200.0×100.0
103	そりのあるかたち	澄川 喜一	272.0× 32.0×120.0
104	花盛り	田中 昇	240.0×120.0× 50.0
105	内気と外気	土谷 武	34.0× 36.0× 24.0
106	冬	番浦 有爾	75.0× 58.0× 35.0
107	聖マリア マグダレーナ	舟越 保武	40.0× 35.0× 30.0
108	切り込まれた形 '93	渡辺 隆根	180.0× 90.0× 45.0

14 生誕100年記念 ミロ展

地中海に咲いた版画芸術

会期 1994年1月29日(土)～3月21日(伊・祝)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

毎日新聞社, 山陽放送

後援 外務省, 文化庁, スペイン大使館

協力 株式会社毎日コミュニケーションズ

ミロは1893年にスペインのバルセロナに生まれ1983年に亡くなるまで20世紀という時代とともに生きた作家である。彼は、解放された天衣無縫の芸術家として油彩、水彩、版画、彫刻、陶芸などさまざまなジャンルの作品を精力的に制作した。その中で彼が最も力を注いで制作したのが版画である。

ミロの版画は、作家として成熟期を迎えた1950年代から70年代にかけて数多く制作されている。リトグラフ、エッチング、アクアチントなどを合わせると約2,200点にもものほり、版画家ミロとしての制作点数はピカソさえしのぐ。本展では、銅版画の可能性を最大限に引き出した「岸壁の軌跡」「エキイノックス」「反逆者」など1960年代後半から70年代の作品を中心に、ブロンズの彫刻と合わせて約100点を紹介した。

制作物 パンフレット『ミロについて』(子ども対象)



入場者数 11,933人

15 軽井沢ドローイング・ ビエンナーレ 1993

会期 1994年3月26日(土)～5月8日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
財団法人ミモカ美術振興財団

後援 四国新聞社, 西日本放送, 瀬戸内海放送
NHK高松放送局

軽井沢ビエンナーレは単に新人発掘のためでなく、本当に現在の美術界に貢献できる価値を持ったコンクールをという考えのもとに企画された。

最近のコンクールの傾向は、絵画や版画、彫刻にかかわらず応募者の表現手段に対して制限を緩やかにする傾向にある。しかし、本コンクールではまったくその反対の、美術表現の原点を見つめ直すため応募作品を「素描」だけに限定している。

作者の溢れる創造力が、素描という表現手段に制限されることにより逆に緊張度の高いコンクールになっている。国内外の画家のみならず建築家のエスキースや工業デザインなどの素描を幅広く公募。1300点を越える現代の多様な文化潮流を反映した意欲作品の中から選んだ入賞・入選作品と、アンソニー・カロ、クリスト、舟越桂、高松伸らの招待作品合わせて95点を紹介した。



入場者数 **4,511人**

16 デイヴィッド・ホックニー展

カリフォルニアの光と大地

会期 1994年5月15日(日)～6月19日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

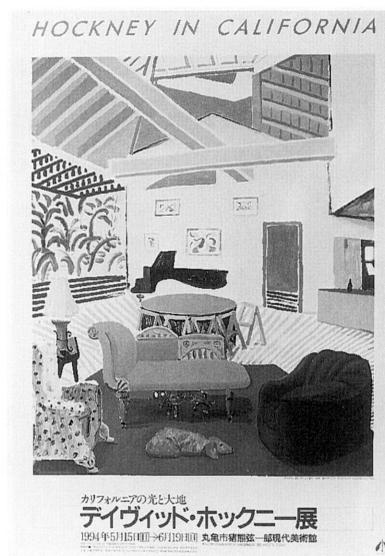
財団法人ミモカ美術振興財団

産経新聞社，西日本放送

後援 文化庁，アメリカ大使館，ブリティッシュ・カウンシル

ポップ・アートの作家として現在世界で最も活躍している芸術家デイヴィッド・ホックニーにとって、もっとも重要な都市はロサンゼルスだ。1960年代以降ロサンゼルスを頻繁に訪れるようになった彼は、カリフォルニアの明るい陽射しの中で得たインスピレーションやここでの経験を題材に精力的に作品を制作し、透明感あふれる画風を確立していった。

本展は、ホックニーとカリフォルニアとの密接な関係を主題とした展覧会であり、南カリフォルニアでの生活や体験が、彼の芸術が多様に発展を続ける過程でいかに中心的役割を担ったかに焦点を当てたものである。カリフォルニアに魅せられ制作された無限に広がるホックニーの世界を、油彩、ドローイング、フォト・コラージュなど約100点で紹介した。



入場者数 5,871人

17 レジェ展

会期 1994年6月25日(土)～7月30日(土)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ
美術振興財団, 四国新聞社, 西日本放送

後援 フランス文化省, フランス大使館

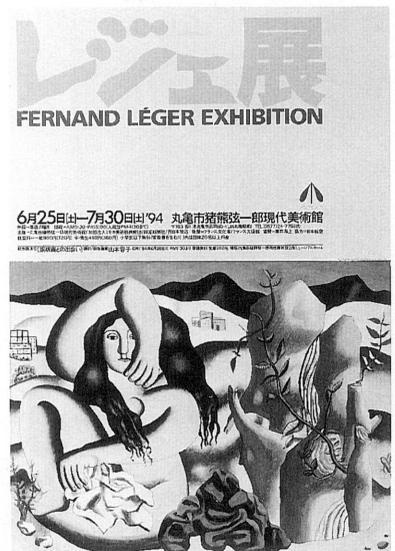
協賛 東京海上

協力 日本航空

フェルナン・レジェ (1881-1955) は、その多様な作品の変遷ばかりでなく、同時代に生きた多くの芸術家や文学者たちとの交遊によってたえず純粋で独自の造形を終生創りだしてきたアヴァンギャルド (前衛派) であったことは広く知られており、近年彼に対する評価はピカソ、マティスと共に今世紀最大の偉大な芸術家の一人としてますます高まってきている。

本展は、対象の分析、把握を始め、色彩の処理などピカソやブラックのキュビズムとは違った知覚的で斬新なキュビズム運動を確立したフェルナン・レジェの本格的な回顧展であり、厳選した油彩、水彩画、素描など125点でレジェ芸術の全貌を紹介した。

制作物 ワークシート (中学生・小学生対象)



関連企画

講演会

6月26日(日) 「銅版画との出会い」

講師 山本容子 (銅版画家)

聴講者数 170人

入場者数 **5,725人**

18 アフリカがやってきた アフリカの動物と 精霊たち展

美術・音楽・映画でアフリカを体験しよう

会期 1994年8月3日(水)～10月2日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

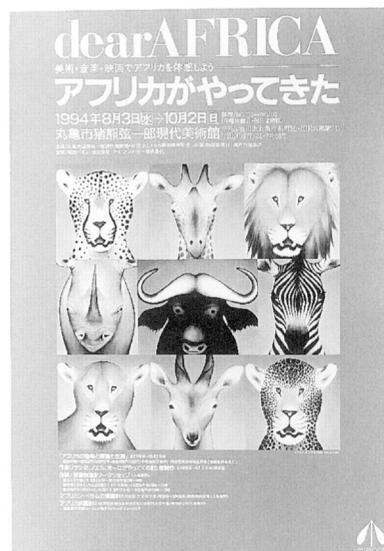
共催 四国新聞社, 瀬戸内海放送

協賛 関西ペイント株式会社, アイ・アンド・ビー株式会社

アフリカの絵画の原点は、今から7000年前にさかのぼる。人々は洞窟の岩面をカンヴァスにして、動物の姿を描く「ロック・ペインティング」を行っていた。

近年こうした伝統を継承した新しい絵画のスタイルの現代絵画が、都市で誕生した。ハードボードにエナメルペンキで、動物を始め、人々の生活、神々や精霊を、鮮やかな色彩と独特で自由なフォルムで描きだすのが特徴である。この絵画のスタイルは、西洋美術とは無縁の地から出発しており、古来より動物とともに生きてきた人々の「自然の共生」の宇宙観が反映されている。

本展覧会では、現在東アフリカで活躍中のリランガ、ノエル、オーコ等5人による約80点の絵画を展示した。また展覧会のみならず、公開制作、ワークショップなど多角的アプローチにより、現代のアフリカについて紹介した。



関連企画

公開制作

8月6日(土)～21日(日) リランガ、ノエル、オーコがやってくる
作家 リランガ/ノエル/オーコ

ワークショップ

8月3日(水)～28日(日) 体験! 絵画教室(小・中・高・一般対象)
8月10日(水)～14日(日) 体験! 絵画教室(小・中対象)
8月16日(火)～19日(金) 体験! 絵画教室(小・中対象)
参加者数 726人

映画上映

9月4日(日)・11日(日)・15日(木・祝)・18日(日)・23日(金・祝)
25日(日)
「生命の木」 / 「シーシェル」
「タウンシップ・ミュージック」
参加者数 307人

パフォーマンス

8月20日(土)・21日(日) アフリカン・ドラムの演奏
出演 バティンボ・ドラマーズ・オブ・プルンジ
参加者数 2,470人

入場者数 **13,463人**

19 猪熊弦一郎遺作展

青春の軌跡

会期 1994年10月9日(日)~1995年1月8日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

共催 読売新聞大阪本社, 美術館連絡協議会, 西日本放送

協賛 花王株式会社

1993年5月、90歳で亡くなった猪熊弦一郎の画業を没後初めて回顧した。

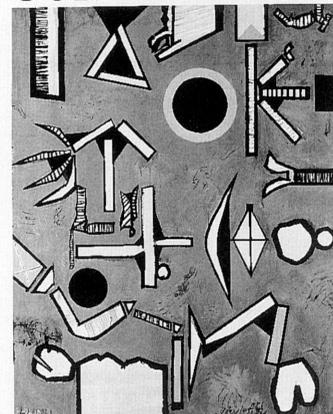
猪熊弦一郎の画風は、初期の叙情的な写実作品から半抽象を経て本格的な抽象へと変遷した。

それは、具象から抽象へと変化してきた日本の近代、現代美術の一つのプロセスであり、一人の作家の作品を通して日本の美術史の一面をたどることができる。

本展では丸亀市猪熊弦一郎現代美術館に寄贈された一万点を超える作品の中から猪熊芸術の変遷を少年期から絶筆に至る作品102点(油彩87点、デッサン15点)により、紹介した。

刊行物 図録『猪熊弦一郎—青春の軌跡—』

GUÉN INOKUMA



猪熊弦一郎遺作展 青春の軌跡
1994年10月9日(日) 1995年1月8日(日) 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



関連企画

講演会

10月16日(日) 「師、猪熊先生について」

講師 荻 太郎 (洋画家)

聴講者数 88人

10月30日(日) 「猪熊弦一郎の人と芸術」

講師 小倉忠夫 (美術評論家)

聴講者数 70人

入場者数 18,562人

作品リスト

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	花	1914	水彩・紙	29.4× 43.8
2	自画像	1921	油彩・カンヴァス	53.5× 45.5
3	少年	1922	油彩・カンヴァス	116.6× 91.0
4	母の像	1924	油彩・カンヴァス	72.8× 60.8
5	自画像	1924	油彩・カンヴァス	38.3× 38.0
6	裸婦像	1925	油彩・カンヴァス	100.0× 80.5
7	婦人像	1926	油彩・カンヴァス	116.8× 91.0
8	眠れる女	1927	油彩・カンヴァス	116.8× 90.9
9	婦人像	1927	鉛筆・紙	36.2× 26.9
10	水差しを持てる女	1930	油彩・カンヴァス	145.5×112.0
11	椅子にすわる女	1930	コンテ・紙	29.2× 24.4
12	天主堂（長崎）	1931	油彩・カンヴァス	53.0× 45.5
13	画室	1932	油彩・カンヴァス	180.3×290.0
14	灰色の服	1933	油彩・カンヴァス	145.5×112.5
15	小豆島オリーブ園	1934	油彩・カンヴァス	50.3× 61.0
16	青年	1934	インク・紙	35.0× 25.0
17	海と女	1935	油彩・カンヴァス	180.1×288.7
18	支那服の女	1936	油彩・カンヴァス	145.0×112.0
19	巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス	72.0× 60.0
20	藤田嗣治像	1938	インク・紙	19.3× 16.8
21	妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス	80.8× 60.0
22	サクランボ	1939	油彩・カンヴァス	80.4× 65.4
23	ホテルクロマニヨン	1939	油彩・カンヴァス	50.0× 61.0
24	レゼジーの駅	1939	油彩・カンヴァス	48.6× 59.8
25	パイプと男	1939	油彩・カンヴァス	60.6× 50.0
26	セロを弾く男	1939	油彩・カンヴァス	60.8× 45.7
27	フランス婦人像	1939	インク・紙	31.2× 23.8
28	パリの婦人	1939	インク・紙	17.8× 11.8
29	セロを弾く男	1939	インク・紙	19.2× 12.4
30	アレパツス トレイネー（パリ）	1939	インク・パステル・紙	31.3× 48.9
31	リュ デュ シャトー（パリ）	1939	インク・パステル・紙	31.3× 49.0
32	マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス	81.2× 65.4
33	巴里の屋根	1940	油彩・カンヴァス	60.0× 72.5
34	長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス	130.5×194.0
35	安陸風景	1941	インク・パステル・紙	22.8× 34.3
36	風景	1943	インク・パステル・紙	22.8× 34.3
37	座る男	1943	インク・紙	40.8× 29.0
38	頭巾をかぶる女	1943	インク・紙	34.8× 25.0
39	ダムのある風景	1944	油彩・カンヴァス	60.5× 72.7
40	編み物をする女	1945	インク・紙	22.8× 21.4

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
41	着衣のバレリーナ	1946	油彩・カンヴァス	72.0× 60.0
42	黄色いスカートの婦人	1946	油彩・カンヴァス	80.5× 64.5
43	横たわる裸婦	1948	油彩・カンヴァス	60.5× 72.5
44	猫と文子	1949	油彩・カンヴァス	79.0× 64.5
45	箱の中の子猫	1949	油彩・カンヴァス	80.5× 65.0
46	妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス	116.5× 91.0
47	二人の子供	1950	油彩・カンヴァス	73.0× 61.0
48	猫と子供	1951	油彩・カンヴァス	92.0× 65.5
49	猫と食卓	1952	油彩・カンヴァス	73.0× 61.0
50	四人の子供と猫	1952	油彩・カンヴァス	80.5× 54.0
51	猫によせる歌	1952	油彩・カンヴァス	181.5×259.0
52	からす	1953	油彩・カンヴァス	130.0×194.0
53	鳥と遊ぶ子供達	1954	油彩・カンヴァス	193.5×130.0
54	馬と道化	1955	油彩・カンヴァス	117.0× 91.0
55	埴輪 I	1956	油彩・カンヴァス	106.4×175.5
56	コンポジション No. 2	1957	油彩・カンヴァス	133.5×136.0
57	獅子舞	1961	油彩・カンヴァス	203.0×183.0
58	月へのいざない	1962	油彩・カンヴァス	152.7×109.3
59	八木節	1962	油彩・カンヴァス	203.5×172.8
60	スネーク ライン	1964	油彩・カンヴァス	126.7×203.5
61	都市計画 D	1964	アクリル・カンヴァス	127.4×102.0
62	にぎやかな通り	1964	油彩・カンヴァス	152.6×127.5
63	風景 QR	1966	油彩・カンヴァス	126.8×127.1
64	街 緑 灯	1967	アクリル・カンヴァス	152.7×127.3
65	街緑 No. 1	1968	アクリル・カンヴァス	203.5×178.0
66	街青 No. 2	1968	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
67	驚く可き風景 A	1969	アクリル・カンヴァス	112.0×193.4
68	水辺 B	1970	アクリル・カンヴァス	203.0×178.0
69	風景	1971	アクリル・カンヴァス	127.3×101.8
70	風景 GT	1972	アクリル・カンヴァス	203.0×178.5
71	風景 BY	1972	アクリル・カンヴァス	203.5×178.8
72	風景 E	1975	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
73	レインボー Z 1	1976	アクリル・カンヴァス	194.0×130.4
74	ピンク・丸・角	1977	アクリル・カンヴァス	110.3× 95.0
75	地図でない地図	1978	アクリル・カンヴァス	194.0×182.0
76	地図でない地図 (E)	1978	アクリル・カンヴァス	111.8× 96.5
77	花嫁のスケジュール	1979	アクリル・カンヴァス	180.0×105.2
78	ターゲット達と三角	1979	アクリル・カンヴァス	136.5×122.5
79	自由の住む都市	1980	アクリル・カンヴァス	137.2×122.0
80	宇宙は機械の運動場 No. 1	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×140.0

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
81	空の遊園地	1981	アクリル・カンヴァス	122.0×101.2
82	空中発芽	1983	アクリル・カンヴァス	126.2× 96.0
83	星座の中の5つの丸	1983	アクリル・カンヴァス	152.0×182.0
84	遊泳する窓	1984	アクリル・カンヴァス	194.0×290.6
85	角の星座 No. 2	1984	アクリル・カンヴァス	126.7× 96.0
86	動物と旗	1985	アクリル・カンヴァス	111.0× 96.0
87	太陽は待つて居る	1987	アクリル・カンヴァス	194.0×130.3
88	宇宙都市計画	1987	アクリル・カンヴァス	135.8×121.0
89	未知の世界への着地	1987	アクリル・カンヴァス	137.2×122.0
90	金環食	1987	アクリル・カンヴァス	152.0×120.9
91	ポートレイトの会話	1988	アクリル・カンヴァス	194.0×130.0
92	顔 47	1988	アクリル・カンヴァス	121.6×101.5
93	顔 35	1988	アクリル・カンヴァス	121.5×101.5
94	顔 23 (B)	1988	アクリル・カンヴァス	100.0× 80.5
95	顔 80	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
96	鳥と遊ぶ	1990	アクリル・カンヴァス	152.0×182.0
97	靴と鳥	1990	アクリル・カンヴァス	130.5× 97.3
98	裸婦9 顔15 鳥2	1990	アクリル・カンヴァス	130.5× 97.1
99	鳥 犬 顔 隣人	1992	アクリル・カンヴァス	194.0×130.0
100	ロボット 顔 犬	1992	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
101	飛ぶ日のよろこび	1993	アクリル・カンヴァス	137.3×122.1
102	カガシの夢	1993	アクリル・カンヴァス	121.0×101.5

20 猪熊弦一郎追悼 勅使河原宏展

—雲とともに—

会期 1994年10月9日(日)~1995年1月8日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

四国新聞社, 西日本放送

後援 財団法人草月会

草月流家元として、自由な感覚の生け花を発表する傍ら、映画、陶芸、舞台芸術など様々な分野において多彩な活動をおこなっている勅使河原宏の竹のインスタレーションを紹介した。この美術館での勅使河原の展覧会は、猪熊亡き後、勅使河原の猪熊への追悼展とも言えるものである。

美術館という無機質な空間の中に、竹という植物の有機的な曲線を配することにより空間全体は変貌を遂げる。その自由な形と質感、竹独特の香りが醸し出す空間の中に身を置くことにより現出する不思議な世界は、伝統と現代が交錯し人々を魅了する展示であった。また竹による展示が、美術館1階のゲートプラザから大階段を通って2階、3階の茶室へと続くことにより、新しい展示の可能性を提示することができた。

HIROSHI TESHIGAHARA



猪熊弦一郎追悼 勅使河原宏展 雲とともに
1994年10月9日 1995年1月8日 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
四国新聞社 西日本放送 財団法人ミモカ美術振興財団 財団法人草月会

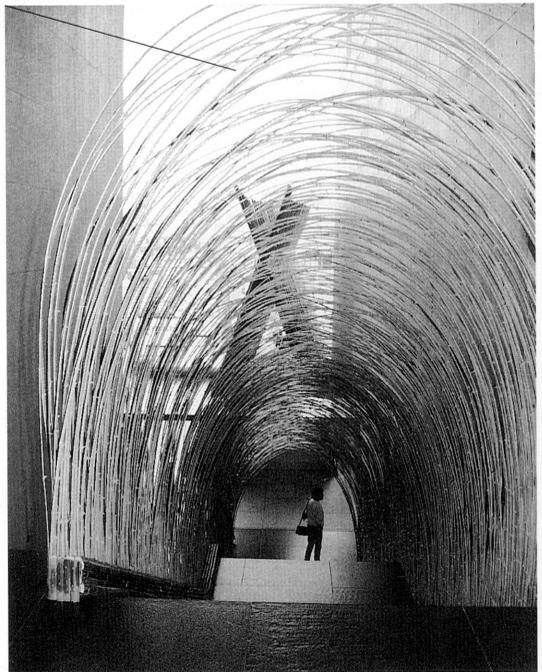
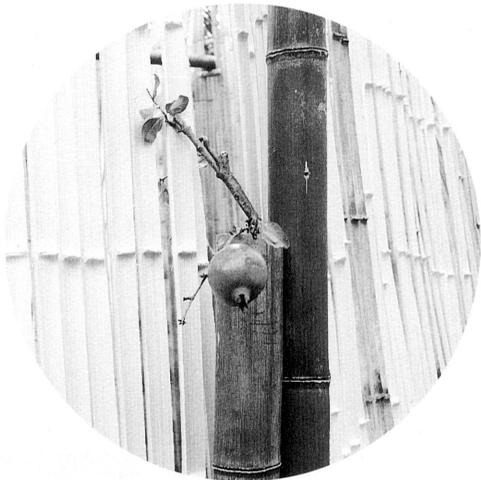
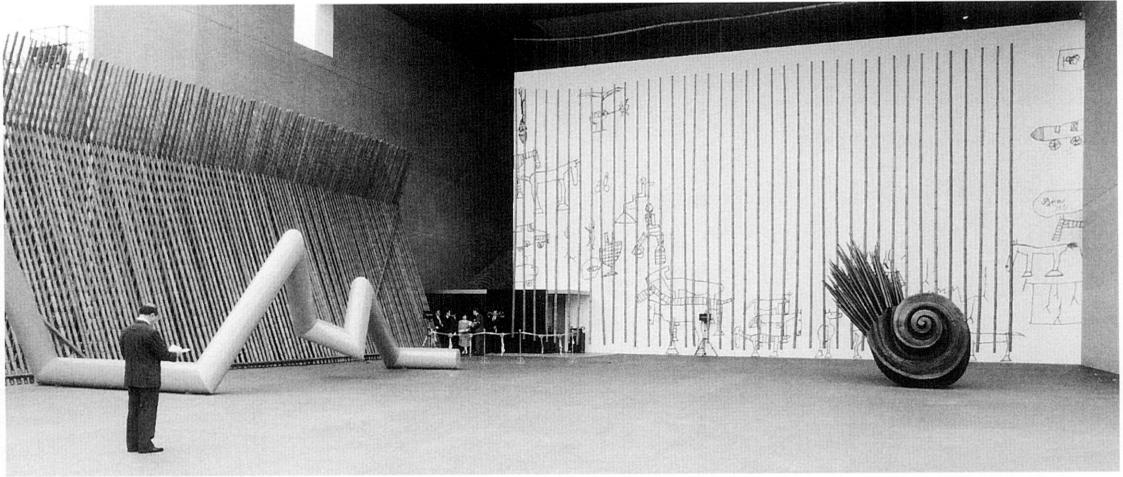
関連企画

映画上映

会期中の土・日・祝日 勅使河原宏フィルム・フェスティバル
「豪姫」「北斎」「利休」「アントニー・ガウディ」「砂の女」「ホゼイ・トーレス」「座頭市・夢の旅」「座頭市・虹の旅」「おとし穴」「他人の顔」「サマー・ソルジャー」

入場者数 266人

入場者数 **11,969人**



21 ミルウォーキー美術館所蔵 20世紀美術の巨匠たち

ピカソからウォーホルまで

会期 1995年1月14日(土)～2月26日(日)

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

後援 四国新聞社, 西日本放送, 瀬戸内海放送

協力 日本航空

アメリカ合衆国中北部ミシガン湖畔に位置するミルウォーキー市にあるミルウォーキー美術館は、1888年の開館以来、文化・芸術を愛好する人達に支えられて発展してきた。現在では、絵画・写真・彫刻・装飾美術など15世紀から今日までの美術作品を2万点以上所蔵するに至っている。

本展ではそれらのうち50人の作家、53点（うち絵画50点、彫刻3点）を紹介した。今世紀の西洋美術の流れを概観できるようにフォーヴィスムからポップアートまでを含む幅広い傾向の作品を選んだ。主なものとしては、ドイツ表現主義のキルヒナーやノルデ、フォーヴィスムではブラック、ヴラマンク、ポップアートからはウォーホル、リキテンスタイン、その他ピカソ、ミロ、シャガールなどの作品を展覧した。今世紀美術の動向を一挙に見ることができるまたとない機会となった。

制作物 ワークシート（中学生対象）



ミルウォーキー美術館所蔵
20世紀美術の巨匠たち
ピカソからウォーホルまで
1995年1月14日土 2月26日 日 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



入場者数 6,968人

22 猪熊弦一郎の世界

作品とコレクション

会期 1995年3月5日(日)～5月7日(日)

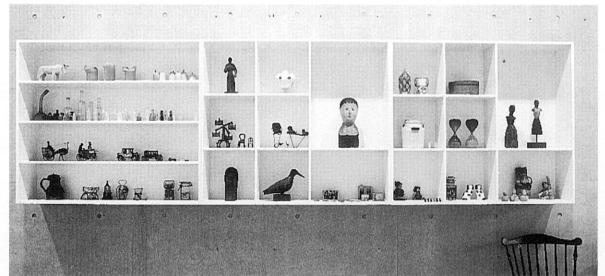
主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

財団法人ミモカ美術振興財団

後援 四国新聞社, 西日本放送, 瀬戸内海放送

猪熊弦一郎のコレクションの中には、滞米中にあつめられたアーリーアメリカンの家具や道具など今日では手に入れることの難しい貴重なものがある。一方、何度も車に轢かれてペチャンコになった車のナンバープレート、道端で拾ったジュースのプルタブなど、普通ならゴミとして処分される運命だったものもある。猪熊弦一郎がそれらのものを友として、また恋人のようにいつも手元に置いていたのは、それらが持つ美しさに魅せられていたからである。

本展では、初期から晩年までの作品約50点を2階、3階の展示室に、画家の目を通してあつめられたコレクションの中から約500点を2階に展示した。展覧会ポスターにも使われた、ネイティブ・アメリカンの守神「カチナドール」他コレクションのひとつ、ひとつは観覧者を大いに魅了した。



入場者数 5,333人

作品リスト

絵画部門

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
1	自画像	1925	油彩・カンヴァス	37.8× 37.8
2	コンポジション	1930	油彩・カンヴァス	181.7×257.0
3	ピアノの前	1934	油彩・カンヴァス	180.0×290.0
4	馬と少女	1935	油彩・カンヴァス	112.0×144.5
5	夜	1937	油彩・カンヴァス	197.5×289.5
6	地下鉄の中 (巴里)	1938	油彩・カンヴァス	80.2× 65.0
7	にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
8	魚と女	1939	油彩・カンヴァス	91.5× 53.4
9	ルノアールのモデル	1939	油彩・カンヴァス	73.0× 59.0
10	座像ルノアールのモデル	1939	油彩・カンヴァス	73.0× 59.0
11	バレリーナ夢想	1950	油彩・カンヴァス	131.0×162.0
12	静寂	1956	油彩・カンヴァス	157.0× 91.5
13	飛躍	1956	油彩・カンヴァス	198.7×152.7
14	静かな風景	1956	油彩・カンヴァス	157.2× 91.2
15	道	1956	油彩・カンヴァス	127.0× 91.5
16	星座	1958	油彩・カンヴァス	200.5×180.0
17	水	1959	油彩・カンヴァス	134.5× 63.5
18	四角と点	1959	油彩・カンヴァス	71.0×101.5
19	音のあそび	1961	油彩・カンヴァス	152.5×152.5
20	上がる	1961	油彩・カンヴァス	157.8× 91.5
21	空間の循環	1961	油彩・カンヴァス	152.0×101.0
22	太陽の日	1962	油彩・カンヴァス	127.0×102.0
23	隣人へのあいさつ	1962	油彩・カンヴァス	152.5×127.2
24	Mizu	1962	油彩・カンヴァス	152.5×127.3
25	引力の外	1962	油彩・カンヴァス	152.5×127.0
26	赤と青の場所	1962	油彩・カンヴァス	152.5×127.3
27	夜を走る	1962	油彩・カンヴァス	157.7× 91.2
28	ティーンエイジャー	1962	油彩・カンヴァス	157.9× 91.6
29	スクエア	1962	油彩・カンヴァス	127.0×101.8
30	濃紺と丸	1963	油彩・カンヴァス	152.8×101.8
31	灰色と白の丸	1963	油彩・カンヴァス	178.0×140.0
32	都市計画 (楽しいプロジェクト)	1979	アクリル・カンヴァス	89.8×125.3
33	夜を飛ぶ	1980	アクリル・カンヴァス	137.0×122.3
34	速達	1980	アクリル・カンヴァス	122.0×101.5
35	宇宙都市計画	1981	アクリル・カンヴァス	121.5×136.0
36	サーカスの村 (A)	1981	アクリル・カンヴァス	127.0× 91.2
37	宇宙は機械の運動場 No.2	1981	アクリル・カンヴァス	200.0×250.0
38	創世記の花達	1983	アクリル・カンヴァス	91.0×126.0
39	起重機と蛇	1985	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0
40	窓と星座	1985	アクリル・カンヴァス	194.0×258.8
41	二つの門	1987	アクリル・カンヴァス	152.0×121.0
42	家を作る	1987	アクリル・カンヴァス	122.0×101.8
43	顔 40	1988	アクリル・カンヴァス	136.0×121.0

番号	作 品 名	制作年	材 質	サイズ
44	顔 31	1989	アクリル・カンヴァス	194.0×194.0
45	裸婦 2	1990	アクリル・カンヴァス	136.0×121.5
46	鳥5 顔13	1990	アクリル・カンヴァス	121.5×101.0
47	建築と裸婦	1990	アクリル・カンヴァス	126.5× 96.0
48	マネキンと鳥	1990	アクリル・カンヴァス	136.0×121.2
49	黒い馬 3	1991	アクリル・カンヴァス	122.0×101.0
50	黒い裸子と馬	1991	アクリル・カンヴァス	111.5× 96.0
51	顔 犬 鳥	1991	アクリル・カンヴァス	194.0×259.0
52	裸子1 鳥11 馬2	1991	アクリル・カンヴァス	135.0×122.0
53	黒鳥の休日	1991	アクリル・カンヴァス	127.0× 92.0
54	裸子2 顔6 手2 鳥1	1991	アクリル・カンヴァス	136.0×122.0
55	横臥裸子と鳥達	1991	アクリル・カンヴァス	96.0×127.0

コレクション部門

番号	作 品 名	作 家 名	制作年	材 質	サイズ
56	花	アンディ・ウォーホル	1964	シルクスクリーン・紙	59.0× 58.9
57	En Noir et Blanc	アントニ・タピエス	1959	リトグラフ・紙	108.9× 78.7
58	紐	アントニ・タピエス	1971	リトグラフ・紙	95.4× 77.0
59	Yellow Store Front	クリスト	不詳	シルクスクリーン・コラージュ・紙	82.0× 60.5
60	Eleven Part Self-Portrait	ジム・ダイン	1965	リトグラフ・紙	52.7× 40.9
61	The Poet Assassinated	ジム・ダイン	1971	リトグラフ・紙	92.0× 73.8
62	不詳	パブロ・ピカソ	1953	エッチング・紙	83.5× 67.5
63	牛の壁紙	アンディ・ウォーホル	不詳	オフセット・紙	117.0× 76.0

番号	展覧会ポスター名	開催館	開催年
64	ピカソ展	ニューヨーク近代美術館	1980
65	ジャスパー・ジョーンズ展	ホイットニー美術館	1980
66	ル・コルビュジェ展	グリーン コレクション	1983
67	ジャスパー・ジョーンズ展	ニューヨーク近代美術館	1986
68	ロバート・ラウシェンバーグ展	世田谷美術館	1986

番号	コレクション名	材 質
69	アーリーアメリカンの椅子	木
70	アーリーアメリカンのわっぱ	木・塗料
71	アイスクリーム型玩具	蠟
72	アンティークドール	布・セルロイド
73	石皿	石
74	犬型置物	陶土
75	犬型看板	鉄・塗料
76	インド産 石	石
77	牛型玩具	木

番号	コレクション名	材 質
78	牛型玩具	木
79	馬型はにわ(頭部)	陶土
80	カチナドール	木・羽毛・塗料
81	ガラス壺	ガラス
82	ガラスびん	ガラス
83	金属製車型玩具	金属
84	小型アンティークドール	布・プラスチック
85	彩色牛型	陶土
86	白い台	プラスチック・金属
87	白い台	プラスチック・金属
88	人物はにわ	陶土
89	人面壺	陶土
90	砂時計	ガラス・砂
91	石像	石
92	対話彫刻	針金・木・プラスチック等
93	チェスト	木・塗料
94	チェスト	木・金属
95	土人形	陶土
96	壺	陶土
97	テーブル	木・塗料
98	テーブル	木・金属
99	デコイ	木・塗料
100	デコイ	木
101	手毬	糸・布
102	土偶	陶土
103	土製おろし金	陶土
104	鳥型玩具	木・塗料
105	鳥型テラコッタ	陶土
106	人形玩具	布・陶土
107	人形玩具	木
108	人形頭部	金属・紙
109	猫型置物	ガラス
110	人型壺	陶土
111	広口壺	陶土
112	広口壺	陶土
113	ブリキ玩具(馬車型)	ブリキ
114	ベネチアングラス	ガラス
115	ままごとセット	木・陶土
116	メキシコ呪詛祭具	木・植物性繊維
117	蠟燭	蠟
118	わっぱ	木

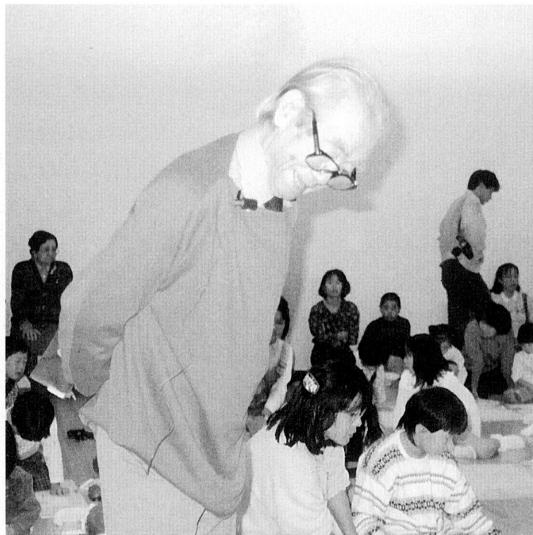


IV

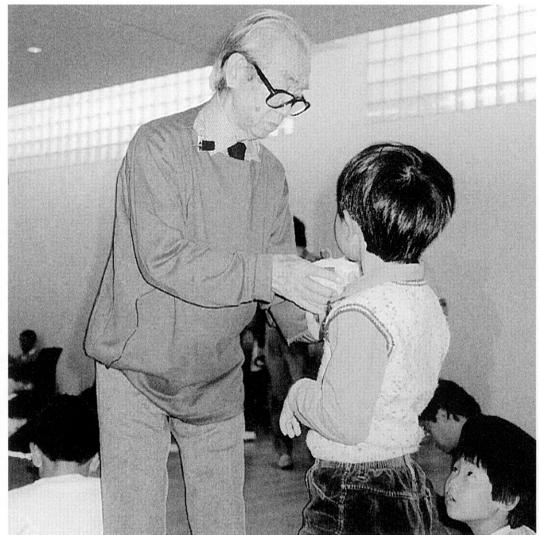
ワークショップ

子どもたちの豊かな創造力を伸ばし、育むことを目的として、主に小・中学生を対象にワークショップを開催した。開催日については、91年度は開館記念に1回、93年度から毎月1回第2土曜日の実施を本格化、94年度では夏休みに展覧会と関連したワークショップも開催し、作家と子どもたちの交流の場を設けた。

ワークショップ名	開催日時・会場	講師	対象	人数	参加費	内容
美術館開館記念 「猪熊先生をかこう！」 子どもスケッチ大会	1991.10.27(日) 10:00~15:00 造形スタジオ	猪熊弦一郎 荒井茂雄	5歳~ 小学校6年生	160人	無料	猪熊画伯をモデルにクレパスを使用してスケッチを行う。



「猪熊先生をかこう!」



「猪熊先生をかこう!」



ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
「布で絵をつくる」	1992.9.12(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	25人	¥500	キャンパスの上にフェルトを自由に切って貼付けて絵を作る。
「君も挑戦、 いっしょに描いてみよう！」	1992.10.17(土)・ 18(日) 10:00～15:00 カスケードプラザ	美術館スタッフ	対象不問	120人	無料	30cm四方のグラデーションボードに動物の絵を描く。
「粘土であそぼう」	1992.11.14(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	大西康彦 (彫刻家)	小・中学生	25人	無料	テラコッタ粘土を使用して干支の動物と自分を組み合わせてレリーフを作る。
「石でつくる」	1992.12.12(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	25人	無料	「ぼくの、わたしの好きな〇〇」というテーマで石を使用して作品を作る。
「ダンボールで絵をつくる」	1993.1.9(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	荒井茂雄 (洋画家) 美術館スタッフ	小・中学生	39人	無料	ダンボールに様々なものを貼り付けたり穴を開けたりして自由に絵を作る。
「粘土であそぼう」	1993.2.13(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	大西康彦 (彫刻家)	小・中学生	20人	無料	テラコッタ粘土を使用して干支の動物と自分を組み合わせてレリーフを作る。

造形講演会

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後 援 丸亀市幼稚園教育研究会・丸亀市保育所造形研究会
日 時 1992年8月23日(日)
会 場 ミュージアムホール
講 師 鳥居 昭美 (元高知大学教育学部教授)
鳥居 淑子 (フリーライター)
演 題 「子どもの絵をダメにいませんか？」
聴講者数 138人



「石でつくる」



「布で絵をつくる」



「粘土であそぼう」

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
「美術館探検！」	1993.3.13(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	33人	無料	班ごとに別れ、美術館の施設や作品に関するクイズを解きながら館内を探検する。
「シルエット絵」	1993.4.10(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	荒井茂雄 (洋画家)	小・中学生	21人	無料	大きな紙の上に身体のシルエットをかたどり、中を自由に着色していく。テーマは「心の中」。
「いろとかたちであそぼう」	1993.5.8(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	37人	無料	色紙を切り貼りしたり筆で描いたりして自由な形を構成し、絵を作る。
「電話をテーマに絵をかこう」	1993.6.12(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	江戸 健 (洋画家)	小・中学生	49人	無料	電話をテーマにして絵を描く。
「ドッキリするおめんをつくろう」	1993.7.10(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	川崎展子 (現代美術作家)	小・中学生	29人	無料	カラードフォルムに切り込みを入れたり、折り曲げたりして楽しいお面を作る。
「いらないものをつかってアートしよう」	1993.8.7(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	22人	無料	不用品やガラクタを組み合わせ、立体作品を作る。
「知らない星でまちをつくろう」	1993.9.11(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	23人	無料	「300年後の未来の街」を他の惑星にいて作ると仮定して発想させ、自由な画材を用いて描かせる。
「どこにもない服をつくろう」	1993.10.9(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	25人	無料	様々な素材を用い、自分が着てみたい、みたことのない服を作る。
「ホネ・ほね・骨」	1993.11.13(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	27人	無料	様々な種類の骨のコピーを組み合わせ、絵を作る。
「年賀状のヒント・型をとってあそぼう」	1993.12.11(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	川崎展子 (現代美術作家)	小・中学生	25人	無料	干支の動物・犬をモチーフに版画を彫り、年賀状を作る。
「じぶんのはたをつくろう」	1994.1.8(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	25人	無料	自分や家族、身近なものをマークにし、オリジナルの旗を作る。
「ミラクルキーホルダー」	1994.2.12(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小学校低学年 (1年生～3年生)	27人	無料	プラスチック板セットを使用し、オリジナルキーホルダーを作る。
「みんなでつくろう —でっかい彫刻—」	1994.3.12(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	29人	無料	クラフト紙に新聞紙を詰め着色し巨大な彫刻を作る。

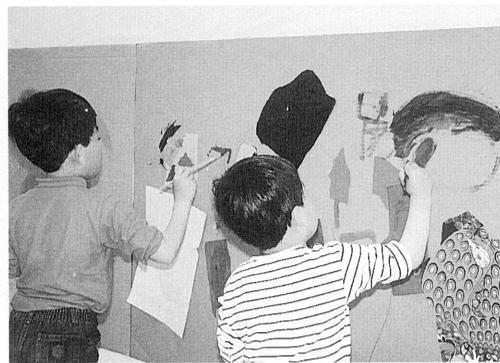
ワークショップ名	開催日時・会場	講師	対象	人数	参加費	内容
「たてものの内側を かいてみよう」	1994.4.9(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	17人	無料	印象に残った建物の内側や自分が想像する楽しい部屋の様子を描く。
「写真をつなげてかこう」	1994.5.14(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	荒井茂雄 (洋画家)	小・中学生	30人	無料	写真・雑誌・広告を自由に切り、コラージュで絵を作る。
「面白いものをつくろう 一箱の中の世界」	1994.6.11(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	荒井茂雄 (洋画家)	小・中学生	30人	無料	様々な形のダンボールの中に廃品などを組み合わせて入れ、面白い世界を作る。
「食べられる ニューペインティング」	1994.7.9(土) 9:30~12:00 造形スタジオ	川崎展子 (現代美術作家)	小・中学生	22人	無料	食料品を使用してニューペインティングを体験。作品は観賞後食べる。

造形講演会

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
 後 援 丸亀市幼稚園教育研究会・丸亀市保育所造形研究会
 日 時 1994年2月19日(土)
 会 場 ミュージアムホール
 講 師 安斎千鶴子(東京造形大学教授)
 演 題 「子どもの絵はなぜ面白いか」
 聴講者数 196人



「ドッキリするおめんをつくろう」



「いろいろかたちであそぼう」



「ホネ・ほね・骨」



「みんなで作ろう-でっかい彫刻-」

ワークショップ名	開催日時・会場	講 師	対 象	人数	参加費	内 容
夏休み 「ノエルといっしょに描こう」	1994.8.10(水)～ 1994.8.14(日) 10:00～12:00 ゲートプラザ・ 造形スタジオ	ノエル・ カパンダ (ティンガティンガ画家)	小・中学生	97人 (5日間 合計)	無料	30cm 四方のグラデーションボ ードに動物の絵を描く。
夏休み 「リランガといっしょに描こう」	1994.8.16(水)～ 1994.8.19(金) 10:00～12:00 造形スタジオ	ジョージ・ リランガ (ティンガティンガ画家)	小・中学生	84人 (4日間 合計)	無料	ひょうたんのまわりに水性ペン キで精霊の絵を描く。
夏休み オープンワークショップ 「みんなでかこう」	1994.8.3(水)～ 1994.8.28(日) 13:00～16:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	対象不問	545人 (26日間 合計)	無料	30cm 四方のグラデーションボ ードに動物の絵を描く。
「木のかげらでつくる虫の国」	1994.9.10(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	四宮金一 (洋画家)	小・中学生	34人	無料	ダンボール台紙の上に木くずや マッチ棒で虫の絵を描く。
「ほくもわたしも音楽家 —自分の音をつくろう—」	1994.10.9(日) 9:30～12:00 造形スタジオ	荒井茂雄 (洋画家)	小・中学生	27人	無料	廃品を使用して、オリジナル楽 器を作る。
「壁から飛び出す立体絵画」	1994.11.12(土)・ 13(日) 9:30～12:00 造形スタジオ	川崎展子 (現代美術作家)	小・中学生	43人	無料	様々な形の発泡スチロールを組 み合わせ、レリーフ状の立体的 な絵を作る。
「粘土であそぼう」	1994.12.10(土) 9:30～16:00 造形スタジオ	大西康彦 (彫刻家)	小・中学生	78人	無料	粘土で干支の動物・猪などの動 物を作る。 (高学年はテラコッタ粘土で土鈴) (低学年は紙粘土で好きな動物)
「緑の竹が大変身」	1995.2.11(土祝) 12(日) 9:30～12:00 造形スタジオ	川崎展子 (現代美術作家)	小・中学生	23人	無料	いろいろな長さの竹を組み合わ せ、動物を作る。
「まいまっぷ地図をつくろう」	1995.3.11(土) 9:30～12:00 造形スタジオ	美術館スタッフ	小・中学生	32人	無料	廃品を使用して、自分の住んで いる街、住みたい街を想像 して作る。

造形講演会

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

日 時 1995年1月15日(日・祝)

会 場 ミュージアムホール

講 師 荒井茂雄 (洋画家)

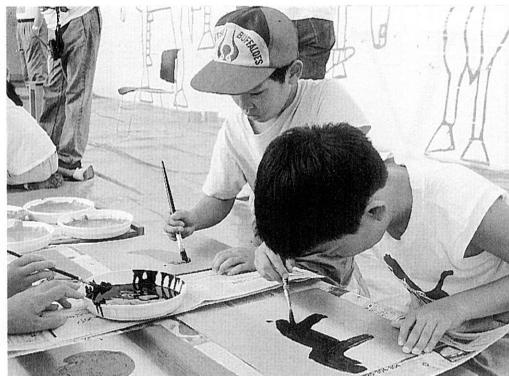
演 題 「豊かな創造力、豊かな人生

—親子の信頼を深めるために—

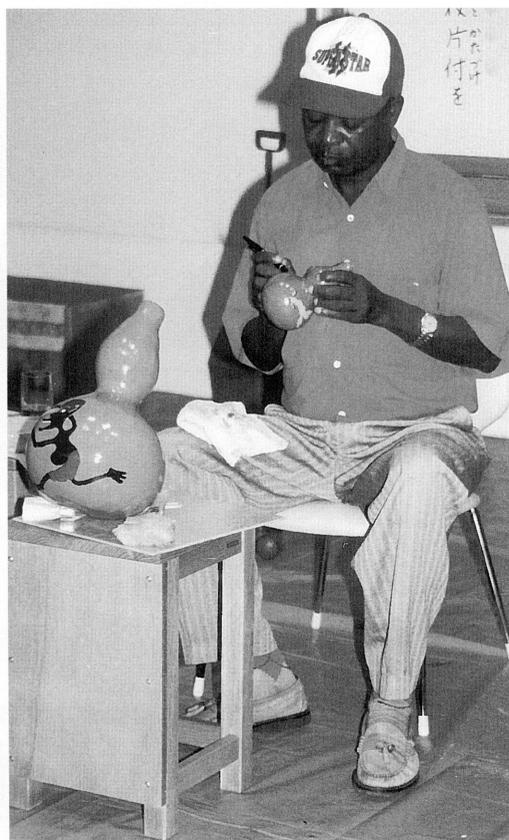
聴講者数 68人



「ノエルといっしょに描こう」



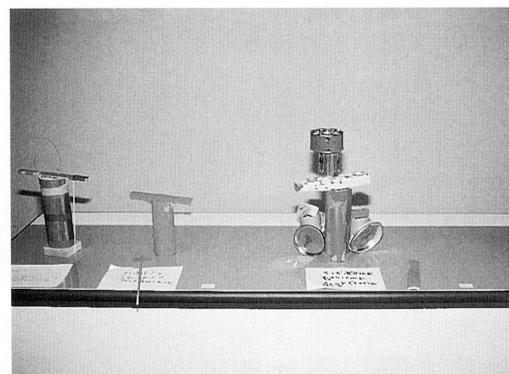
「ノエルといっしょに描こう」



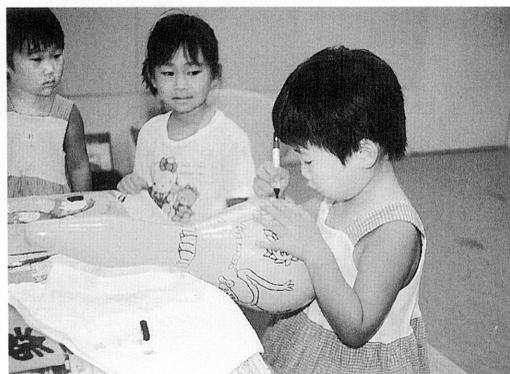
「リランガといっしょに描こう」



「みんなでかこう」



「ぼくもわたしも音楽家-自分の音をつくろう-」



「リランガといっしょに描こう」



「緑の竹が大変身」

V

コンサート 文化講演会

1 開館記念講演会ギャラリーコンサート

演 題 「ひとはなぜ歌うのか」
主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後 援 四国新聞社・西日本放送
日 時 1991年11月26日(火) 講演会 午後6時～ 演奏会 午後7時15分～
会 場 3階展示室
講 師 桐朋学園大学学長 三善 晃
出 演 加藤知子(ヴァイオリン)、秋津智承(チェロ)、植松起代子(ピアノ)
曲 目 無伴奏チェロ組曲 第6番 ニ長調 他

入場者数370人



2 斎藤京子ピアノリサイタル

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後 援 四国新聞社・西日本放送
日 時 1992年3月14日(土) 午後6時～
会 場 ミュージウムホール
出 演 斎藤京子(ピアノ)
曲 目 ピアノソナタ イ長調 他

入場者数170人

3 パヴェル・ボガチュ&ルードヴィット・カンタと共に 藤井睦子スプリングコンサート

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後 援 四国新聞社・西日本放送
日 時 1992年4月19日(日) 昼の部 午後2時～ 夜の部 午後6時～
会 場 ミュージウムホール
出 演 藤井睦子(ピアノ)、パヴェル・ボガチュ(ヴァイオリン)、ルードヴィット・カンタ(チェロ)
曲 目 デュポールのメヌエットによる9つの変奏曲 他

入場者数360人

4 近藤孝司トロンボーン四重奏団演奏会

主 催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後 援 四国新聞社・西日本放送・ヤマハ株式会社
日 時 1992年8月1日(土) 午後2時～
会 場 ミュージウムホール
出 演 近藤孝司(ソプラノ、アルト、テナー・トロンボーン)、三窪 毅(テナー・トロンボーン)
大江健司(テナー・トロンボーン)、初田 靖(バス、コントラバス・トロンボーン)
曲 目 聖歌、ユーモレスク、スラブ舞曲第8番 他

入場者数131人

5 トッド・パーマークラリネットリサイタル

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 入場者数180人
後援 四国新聞社・西日本放送
協賛 日本航空株式会社
日時 1992年9月19日(土) 午後6時30分～
会場 ミュージアムホール
出演 トッド・パーマー(クラリネット)、イグナート・ソルジェニーツイン(ピアノ)
曲目 クラリネット・ソナタ、大協奏的三重奏曲 他

6 ティンガティンガパフォーマンス アフリカン・リズムを体感しよう！

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 入場者数600人
共催 四国新聞社
後援 タンザニア大使館・ティンガティンガ協会・国際交流基金・西日本放送
NHK高松放送局
協賛 関西ペイント株式会社・株式会社アイアンドビー
日時 1992年10月18日(日) 午後2時～
会場 ゲートプラザ
出演 B.B.モフラン・トリオ

7 美術館開館一周年記念コンサート

ヴァイオリニスト古澤巖を迎えて猪熊弦一郎“音楽”を語り 入場者数189人
世界の古澤巖・ヴァイオリンで“美術”を奏でる
一部 猪熊弦一郎&古澤巖トークショー、二部 古澤巖コンサート
主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局
日時 1992年11月21日(土) 午後5時～
会場 2階展示室
出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、朝川朋之(ピアノ)、斎藤 順(コントラバス)
曲目 ジプシーの女、ツイゴイネルワイゼン 他



8 亀井陽二バリトンリサイタル

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 入場者数225人
後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局
日時 1993年1月6日(水) 午後6時30分～
会場 2階展示室
出演 亀井陽二(バリトン)、平 郁夫(ピアノ)
曲目 荒城の月、浜千鳥 他

9 高畑美登子箏の夕べ

箏と弦楽四重奏による

入場者数176人

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局

日時 1993年2月27日(土) 午後5時～

会場 ミュージウムホール

出演 高畑美登子(箏)、高口浩二(ヴァイオリン)、大心池由美(ヴァイオリン)、栄智宏(ヴィオラ)、伊藤哲次(チェロ)

曲目 春の海、神仙調舞曲 他

10 須川展也サクソフォンコンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

入場者数227人

後援 香川県吹奏楽連盟・四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局

日時 1993年3月27日(土) 午後5時～

会場 ミュージウムホール

出演 須川展也(サクソフォン)、小柳美奈子(ピアノ)

曲目 G線上のアリア 他

11 高尾哲也・高尾牧子ジョイントリサイタル

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団

入場者数201人

後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局

日時 1993年5月1日(土) 午後6時～

会場 ミュージウムホール

出演 高尾哲也(クラリネット)、高尾牧子(ソプラノ)、泉晶子(ピアノ)

曲目 ソナタ作品167、ソロ・ドゥ・コンクール 他

12 近藤千鶴ジャズコンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団

入場者数104人

日時 1993年5月15日(土) 午後6時～

会場 ミュージウムホール

出演 近藤千鶴(ヴォーカル)、多田誠司(サクソ)、砂田知宏(ピアノ)、酒井一郎(ベース)、安藤信二(ドラムス)

曲目 P.S.I Love You 他



13 富田真理ソプラノリサイタル

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数163人
後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局
日時 1993年7月24日(土) 午後6時～
会場 ミュージアムホール
出演 富田真理(ソプラノ)、北矢由美(ピアノ)、丸亀市立西中学校コーラス部
曲目 エンパイア劇場の歌姫、浜辺の歌 他

14 ピエール&倫子・モンティ デュオリサイタル

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数122人
後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局
日時 1993年7月31日(土) 午後6時～
会場 ミュージアムホール
出演 ピエール・モンティ(フルート&ピッコロ)、堀中・モンティ・倫子(ピアノ)
曲目 ソナタニ長調、精霊の踊り 他

15 MONCA de TAD クラリネットアンサンブルコンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数232人
後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局
日時 1993年8月5日(木) 午後6時～
会場 ミュージアムホール
出演 山崎盾之(指揮)、宮下しのぶ(クラリネット ソロ)、山崎盾之 門下生20名
曲目 弦楽のためのセレナード ハ長調 作品48 他

16 古澤巖ミニコンサート

小・中学生を対象 入場者数156人
日時 1993年10月30日(土) 午後2時～
会場 2階展示室

古澤巖ヴァイオリンの夜

一部 古澤巖&片山市長トークショー 入場者数280人
二部 古澤巖ヴァイオリンコンサート
主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団
共催 四国新聞社
後援 NHK高松放送局・瀬戸内海放送・西日本放送
日時 1993年10月30日(土) 午後6時～
会場 2階展示室
出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、ブルーノ・ロビヤール(ピアノ)、斎藤 順(コントラバス)、
赤坂達三(クラリネット)
曲目 ショーロ・インディゴ、マドリガル、ひばり 他

17 古澤巖ヴァイオリンの夜—山形由美ナイト—

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団・
四国新聞社・西日本放送

入場者数404人

後援 Epic / Sony Records

日時 1994年4月1日(金) 午後6時30分～

会場 3階展示室

出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、山形由美(フルート)、
ブルーノ・ロビヤール(ピアノ)、三浦 寛(パーカッション)

曲目 ひばりは上がる、ナバラ 他



古澤巖ミニコンサート

高校生以下を対象

入場者数549人

日時 1994年4月2日(土) 午後4時～

会場 3階展示室

古澤巖ヴァイオリンの夜—山形由美ナイト—

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団・
四国新聞社・西日本放送

入場者数407人

後援 Epic / Sony Records

日時 1994年4月2日(土) 午後6時30分～

会場 3階展示室

出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、山形由美(フルート)、
ブルーノ・ロビヤール(ピアノ)、三浦 寛(パーカッション)

曲目 ひばりは上がる、ナバラ 他

18 古澤巖ミニコンサート

高校生以下を対象

入場者数253人

日時 1994年7月2日(土) 午後4時～

会場 2階展示室

古澤巖ヴァイオリンの夜 サマーコンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団・
四国新聞社・西日本放送

入場者数300人

後援 Epic / Sony Records

日時 1994年7月2日(土) 午後6時30分～

会場 2階展示室

出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、ポール・コレツテイ(ヴァイオラ)、フランシス・グドン(チェロ)、
フィリップ・ブッシュユ(ピアノ)

曲目 マドリガル、ノクターン、瞑想曲作品32 他

古澤巖ミニコンサート

高校生以下を対象

入場者数323人

日時 1994年7月3日(日) 午後4時～

会場 2階展示室

古澤巖ヴァイオリンの夜 サマーコンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団・
四国新聞社・西日本放送

入場者数301人

後援 Epic / Sony Records

日時 1994年7月3日(日) 午後6時30分～

会場 2階展示室

出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、ポール・コレツタイ(ヴィオラ)、フランシス・グドン(チェロ)、
フィリップ・ブッシュユ(ピアノ)

曲目 マドリガル、ノクターン、瞑想曲作品32 他

19 アフリカがやってきた、美術・音楽・映画でアフリカを体感しよう

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団

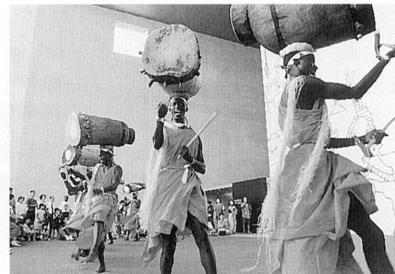
入場者数2470人

日時 1994年8月20日(土)、21日(日) 午後1時30分～

会場 ゲートプラザ

出演 バティンボ・ドラマーズ・オブ・ブルンジ(アフリカン・ドラム演奏)

内容 総勢15人のドラマーが30kg以上の太鼓を頭に載せて練り広げるダンスとリズムの
ダイナミックなステージ。



20 唐華 中国琵琶の夕べ

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団

入場者数204人

後援 四国新聞社・西日本放送・NHK高松放送局・丸亀ユネスコ協会・丸亀市国際交流協会

日時 1994年10月22日(土) 午後6時30分～

会場 ミュージアムホール

出演 唐華(中国琵琶)、八谷 香(ピアノ)

曲目 霸王卸甲、草原協奏曲 他

21 古澤巖ヴァイオリンの夜 クリスマス・コンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数303人
共催 四国新聞社・西日本放送
後援 Epic / Sony Records
日時 1994年12月10日(土) 午後6時30分～
会場 2階展示室
出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、フィリップ・ブツシュ(ピアノ)、テイボー・ドウロール(コントラバス)、
グザビエ・デサンドレ(パーカッション)
曲目 タイガーラグ、瞑想曲 他

古澤巖ミニコンサート

高校生以下を対象 入場者数350人
日時 1994年12月11日(日) 午後4時～
会場 2階展示室

古澤巖ヴァイオリンの夜 クリスマス・コンサート

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数303人
共催 四国新聞社・西日本放送
後援 Epic / Sony Records
日時 1994年12月11日(日) 午後6時30分～
会場 2階展示室
出演 古澤 巖(ヴァイオリン)、フィリップ・ブツシュ(ピアノ)、テイボー・ドウロール(コントラバス)、
グザビエ・デサンドレ(パーカッション)
曲目 タイガーラグ、瞑想曲 他

22 及川浩治ショパンを奏でる

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・財団法人ミモカ美術振興財団 入場者数360人
後援 四国新聞社・西日本放送・瀬戸内海放送
日時 1995年3月11日(土) 午後6時30分～
会場 3階展示室
出演 及川浩治(ピアノ)
曲目 幻想曲 へ短調 作品49 他



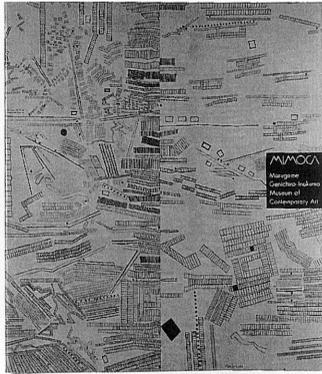
文化講演会

主催 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
後援 四国新聞社・NHK高松放送局・西日本放送・瀬戸内海放送
日時 1994年3月13日(日)
会場 ミュージアムホール
講師 大橋 歩(イラストレーター)
演題 「おしゃれ上手は生き方上手」
聴講者数 325人

VI

刊行物一覧

1991年
(平成3年11月)



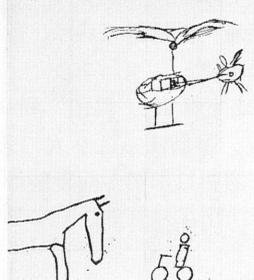
開館記念猪熊弦一郎展

仕様 AB版 変形 本文84ページ
編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
制作 株式会社電通高松支社
内容 ごあいさつ 片山圭之／「美術館の誕生によせて」 猪熊弦一郎／「丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・讃」 藤田慎一郎／「猪熊弦一郎の画業」 小倉忠夫／図版／出品リスト
／猪熊弦一郎プロフィール

発行部数 3,500部

価格 2,500円

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
Marugame Gonchohachiro Museum of Contemporary Art



美術館施設パンフレット

仕様 A4版 変形 本文16ページ
内容 外観写真／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館について／施設写真／猪熊弦一郎プロフィール／主な収蔵作品／沿革／平面図／建築設備概要／利用の案内／交通の案内

発行部数 10,000部

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
Marugame Gonchohachiro Museum of Contemporary Art

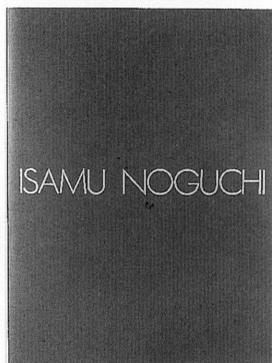
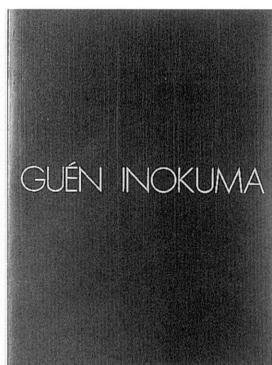


美術館案内パンフレット

仕様 B4版三つ折り
内容 外観写真／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館について／施設写真／猪熊弦一郎プロフィール／主な収蔵作品／平面図／利用の案内／交通の案内

発行部数 70,000部

1992年
(平成4年11月)



猪熊弦一郎卒寿記念展

仕 様 A4版 2分冊
編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
制 作 株式会社電通高松支社
内 容 [GUÉN INOKUMA] 本文40ページ/「絵も悦びでふるえている」猪熊弦一郎/図版/出品リスト/猪熊弦一郎プロフィール
[ISAMU NOGUCHI] 本文56ページ/「イサムはここに来ている」猪熊弦一郎/図版/出品リスト/イサム・ノグチプロフィール

発行部数 2,000部
価 格 3,000円

1993年
(平成5年10月)

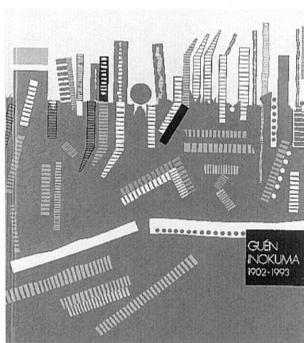


藤島武二と9人の若き洋画家たち

仕 様 A4版変形 本文96ページ
編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
制 作 株式会社電通高松支社
内 容 ごあいさつ/「同志を偲ぶ」脇田 和/「純粹な世界への脱出—昭和11年、藤島武二と9人の若き洋画家たち」岡部昌幸/図版/昭和11年第1回新制作派展 図録表紙・巻頭言/作家解説・出品リスト

発行部数 1,500部
価 格 2,500円

1994年
(平成6年10月)



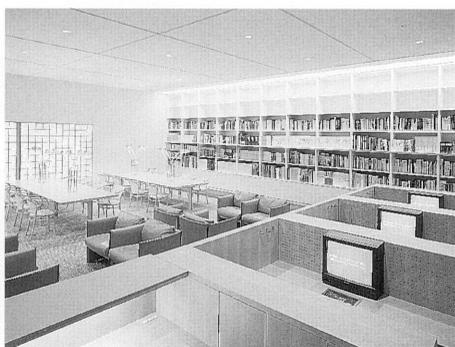
猪熊弦一郎遺作展—青春の軌跡—

仕 様 A4版変形 本文136ページ
編 集 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
発 行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館・読売新聞社・美術館連絡協議会
制 作 株式会社電通高松支社
内 容 ごあいさつ 主催者/ことば 猪熊弦一郎/「猪熊弦一郎の遺したもののたち—その身の品々—」藤田慎一郎/「猪熊弦一郎—その人と画業の軌跡—」小倉忠夫/図版/作品リスト/メモリー(写真29点)/「師 猪熊弦一郎先生」荒井茂雄/「弦兄さんのこと」坂口ユキ/年譜/参考文献

発行部数 10,000部
価 格 2,000円

VII

美術図書室利用状況



1991年度 (平成3年度)

月	利用数	累計	日数
11月	1,735	1,735	7
12月	648	2,383	23
1月	695	3,078	23
2月	801	3,879	25
3月	876	4,755	26

104日 4,755人 (平均 45.7人)

1992年度 (平成4年度)

月	利用数	累計	日数
4月	616	616	25
5月	662	1,278	27
6月	394	1,672	25
7月	530	2,202	27
8月	913	3,115	27
9月	575	3,690	26
10月	508	4,198	27
11月	493	4,691	22
12月	327	5,018	24
1月	386	5,404	24
2月	411	5,815	24
3月	532	6,347	26

304日 6,347人 (平均 20.9人)

1993年度 (平成5年度)

月	利用数	累計	日数
4月	245	245	26
5月	401	646	27
6月	367	1,013	26
7月	336	1,349	27
8月	612	1,961	26
9月	352	2,313	26
10月	537	2,850	27
11月	405	3,255	25
12月	197	3,452	22
1月	270	3,722	23
2月	389	4,111	24
3月	371	4,482	27

306日 4,482人 (平均14.6人)

1994年度 (平成6年度)

月	利用数	累計	日数
4月	230	230	26
5月	313	543	26
6月	269	812	26
7月	395	1,207	27
8月	570	1,777	26
9月	332	2,109	22
10月	226	2,335	20
11月	234	2,569	26
12月	149	2,718	22
1月	271	2,989	21
2月	310	3,299	23
3月	197	3,496	26

291日 3,496人 (平均12.0人)

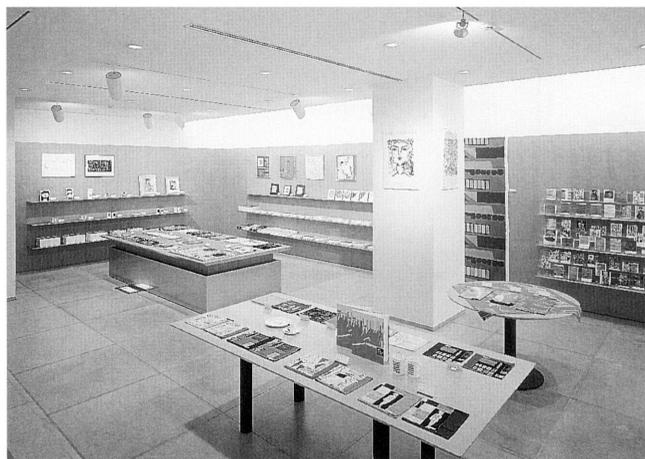
VIII

ミュージアムショップ

『街では売っていないもの、美術館だからあるもの』

猪熊弦一郎

ミュージアムショップは1階エントランスホールに設けられている。商品は全てオリジナルであり、猪熊弦一郎自らグッズ製作に携わった。ハンカチやスカーフなどは猪熊の作品をプリントしたものであり、コーヒーカップやカトラリーなどは猪熊がデザインした美術館のロゴマークをプリントしたものである。



商品一覧

アクセサリ

ペンダントトップ
ゴールド大
ゴールド小
黒台シルバー
シルバー台黒
イヤリング
タイピン

カトラリー

ティースプーン
コーヒースプーン
ケーキフォーク
ヒメフォーク
アイスクリームスプーン
デザートスプーン
デザートフォーク
デザートナイフ
スーpsプーン
ソーダスプーン
メロンスプーン

シルクスクリーン ■ 馬 (ホワイト/ブラック)

スカーフ

黄色の星座 (イエロー/ブラック)
フェイス
ランドスケープ

テーブルクロス

ランドスケープ
ランドスケープ A

Tシャツ

フェイス (ホワイト/ブラック)
UFO

テレホンカード

金環食
猫によせる歌
マドモアゼルM
フェイス 20
裸婦9 顔15 鳥2
美術館外観(夜)



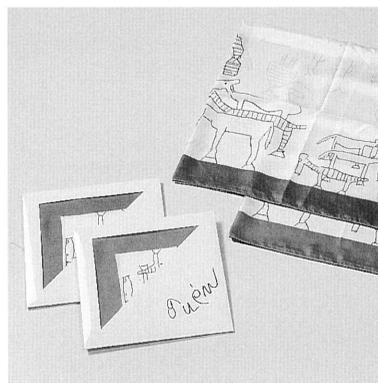
- 陶額 ■ マドモアゼルM
靴と鳥
- 陶器類 ■ コーヒーカップ・ミモカ
デミタスカップ・ミモカ
マグカップ・ミモカ (レッド/ブラック)
マグカップ・ランドスケープ (レッド/グリーン)
アートプレート
- バスタオル ■ ランドスケープ
- バッグ ■ ショッピングバッグ (グリーン)
- ハンカチ ■ 馬 (ブルー)
フェイス (グレー/グリーン)
ターゲット達と三角
音の遊び
透明なる都市
宇宙都市計画 (イエロー/パープル)

風呂敷 ■ 馬 (ブルー/グリーン)

- ポストカード (50種) ■ 少年
自画像
婦人像
裸婦像
地下鉄の中 (巴里)
フラミンゴ楽園
にんにくを売る子供
自動車の中の家族
ジブシーの子供
魚と女
妻と手袋
サクランボ
マドモアゼルM
娘と葉
立てるダンスーズ
婦人と猫
妻と赤い服
二人の子供
壺と婦人座像
馬と道化
猫によせる歌
獅子舞
八木節
ブラック サークル
スネーク ライン
桃色の地図
街・緑 No. 2
街・青 No. 2
水辺 B
二つの岸 B
風景
風景 G T
風景 B Y
地図でない地図
宇宙は機械の運動場 No. 2
窓
遊泳する窓
宇宙胚胎
窓と星座
通信衛星
黄色の星座
顔 80
三つの言葉
裸婦9 顔15 鳥2
顔 15
顔 10B
鳥たちの日記帳
宇宙都市休日
金環食
手の残した言葉

1992年 (新商品)

- スカーフ ■ 馬 (ピンク/ブルー)
- スケッチブック ■ スケッチブック (大)
- はっぴ ■ はっぴ
- ハンカチ ■ 馬 (ピンク)
- ポスター ■ フェイス (シルク印刷)
- ポストカード ■ モノタイプポストカードセット
- リトグラフ ■ 顔ファミリー (3点セット)
顔30 裸子2
- 表紙絵原画 ■ 10点

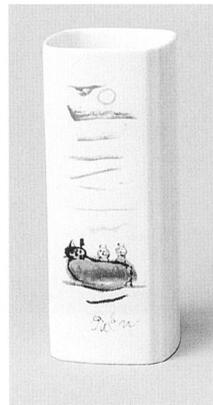


1993年（新商品）

- インテリアアート ■ フェイス
- スカーフ ■ 猫
都市発芽
- スクエアトレイ ■ フェイス
- Tシャツ ■ フェイス (ホワイト/レッド/グリーン/ブラック)
- テレホンカード ■ フェイス (モノクロ)
猫と文子
美術館 (昼)
- 陶額 ■ フェイス 1
フェイス 12
- 陶器類 ■ コーヒーカップ・フェイス
マグカップ・フェイス
- バッグ ■ ショッピングバッグ (ブルー)
- ハンカチ ■ 地図でない地図 (ブラウン/ブラック)
休息を待つ星達 (レッド/パープル)
スペースの散歩 (ブルー/ブラック)
鳥達の詩 (ピンク/グレー)
- フラワーベース ■ フェイス
猫
- 風呂敷 ■ 猫
神宮外苑
- ポストカード (30種) ■ 天主堂 (長崎)
海と女
支那服の女
レゼジーの駅
セロを弾く男
長江埠の子供達
黄色いスカートの婦人
横たはる裸婦
猫と文子
猫と食卓
ターゲット達と三角
風景
ピンク・丸・角
地図でない地図 E
自由の住む都市
動物と旗
太陽は待つて居る
宇宙都市計画
未知の世界への着地
顔 47
飛ぶ日のよろこび
ロボット 顔 犬
カガシの夢
鳥と遊ぶ
藤田嗣治像
フランス婦人像
パリの婦人
セロを弾く男
リュ デュ シャトー (パリ)
風景

ポストカード
(表紙絵)

- 眼
- 黒い髪
- 二人
- 犬
- 楽しい風景
- カナダの毛皮
- やさしい花
- 自転車と娘
- 横顔
- 赤いベレー
- 紙の花
- タクシー
- メキシコの毛糸
- 素人釣
- 顔
- 靴
- 赤くなった顔
- 三月の顔
- 裸足
- 娘と鳩笛
- ビキニスタイルと花
- ヒゲ



1994年（新商品）

- カレンダー ■ 卓上カレンダー (1995)



IX

美術品の貸出

作品名	制作年	材質	貸出先	期間	展覧会名等
1991年度（平成3年度）					
都市計画（黄色No.2）	1968	アクリル・カンヴァス	埼玉県立 近代美術館	1991. 8. 28 ～10. 30	線の表現 目と手の ゆくえ
1993年度（平成5年度）					
ロボット 顔 犬	1992	アクリル・カンヴァス	読売新聞社	1993. 5. 24 ～10. 23	第15回日本秀作美術 展
婦人像	1926	油彩・カンヴァス	神戸市立 小磯記念美術館	1993. 9. 15 ～11. 17	カンヴァスの中の女 たち展
妻と手袋	1939	油彩・カンヴァス			
マドモアゼルM	1940	油彩・カンヴァス			
妻と赤い服	1950	油彩・カンヴァス			
ヴィーナス二人	1990	アクリル・カンヴァス	大田区文化 振興協会	1993. 9. 20 ～11. 30	第7回大田区在住作 家美術展
裸子2 顔6 手2 鳥1	1991	アクリル・カンヴァス			
1994年度（平成6年度）					
顔・鳥	1993	アクリル・カンヴァス	上社会	1994. 4. 22 ～1995. 2. 15	上社会 1994年度展
裸子と顔	1993	アクリル・カンヴァス			
自動車の中の家族	1938	油彩・カンヴァス	毎日新聞大阪 本社	1994. 5. 10 ～11. 10	里見宗次卒寿記念展 モンパルナスの日本画 家たち
三人の娘と自転車	1938	油彩・カンヴァス			
フラミンゴ楽園	1938	油彩・カンヴァス			
にんにくを売る子供	1938	油彩・カンヴァス			
魚と女	1938	油彩・カンヴァス			
K君の像	1939	油彩・カンヴァス			
地下鉄の中（巴里）	1939	油彩・カンヴァス			
婦人像	1939	油彩・カンヴァス			
鳥達の遊び	1993	アクリル・カンヴァス	読売新聞社 美術館連絡協 議会	1994. 5. 26 ～10. 31	第16回日本秀作美術 展
自画像	1925	油彩・カンヴァス	秋田県総合生 活文化会館	1994. 7. 15 ～8. 26	藤島武二と9人の若 き洋画家たち展
婦人像	1926	油彩・カンヴァス			
海と女	1935	油彩・カンヴァス			
馬と少女	1935	油彩・カンヴァス			
二人	1936	油彩・カンヴァス			
夜	1937	油彩・カンヴァス			
昼	1937	油彩・カンヴァス			
黄昏	1937	油彩・カンヴァス			

作品名	制作年	材質	貸出先	期間	展覧会名等
1994年度（平成6年度）					
巴里のおばあさん	1938	油彩・カンヴァス			
サクランボ	1939	油彩・カンヴァス			
娘と葉	1940	油彩・カンヴァス			
長江埠の子供達	1941	油彩・カンヴァス			
婦人と猫	1949	油彩・カンヴァス			
星座	1958	油彩・カンヴァス			
黄色の反響	1960	油彩・カンヴァス			
二つのハート	1980	アクリル・紙			
不祥	1982	アクリル・紙			
二羽の鳥	1984	アクリル・紙			
爬虫類と鳥A	1984	アクリル・紙			
爬虫類と鳥B	1984	アクリル・紙			
鳥達と馬集合	1986	アクリル・紙			
鳥休む	1986	アクリル・紙			
裸子4 顔24	1992	アクリル・発泡スチロール			
顔16	1992	アクリル・発泡スチロール			
顔ブルーの中	1992	アクリル・発泡スチロール			
顔達の休日	1992	アクリル・発泡スチロール			
顔20	1992	アクリル・発泡スチロール			
不祥	1992	アクリル・発泡スチロール			
表紙絵 犬と街	1960	水彩・紙			
表紙絵 プロヴィンスタウン	1960	水彩・紙	高松・三越	1994.10.21 ～11.4	
表紙絵 子供	1961	水彩・紙			
表紙絵 娘さんは大きなものがおすき	1961	水彩・紙			猪熊弦一郎の世界展
表紙絵 休暇の二人	1963	水彩・紙			
表紙絵 素人釣	1963	水彩・紙			
表紙絵 浪花節	1965	水彩・紙			
表紙絵 アイスクリーム	1965	水彩・紙			
表紙絵 二人のピキニ	1970	水彩・紙			
表紙絵 ホノルルの女性	1975	水彩・紙			
表紙絵 眉を無くした顔	1977	水彩・紙			
表紙絵 金色の正月	1979	水彩・紙			
自画像	1922	油彩・カンヴァス			
習作（美校時代）	1925	油彩・カンヴァス			
ギターを持てる女	1930	油彩・カンヴァス			
犬吠風景	1935	油彩・カンヴァス			
赤い服の少女	1938	油彩・カンヴァス			
モンマルトル裏街	1939	油彩・カンヴァス			
ヴァイオリンを持てる女	1940	油彩・カンヴァス			
猪熊弦一郎遺作展 作品102点	1914～ 1993	油彩・カンヴァス 他	三越美術館		猪熊弦一郎遺作展
1995年度（平成7年度）					
猪熊弦一郎遺作展 作品102点	1914～ 1993	油彩・カンヴァス 他	浜松市美術館、 呉市立美術館		猪熊弦一郎遺作展

X

入館者状況

会 期	展 覧 会 名	日数(日)	入場者数(人)	平均(人)
1991年度 (平成3年度)				
1	1991年11月23日～1992年3月31日 開館記念猪熊弦一郎展	104	50,603	487
計50,603				
1992年度 (平成4年度)				
2	1992年4月11日～1992年5月10日 クリスト展	26	5,851	225
3	1992年5月15日～1992年7月31日 猪熊弦一郎の世界1920-50	67	7,834	117
4	1992年8月6日～1992年9月20日 版画芸術の饗宴	41	8,651	211
5	1992年9月26日～1992年10月11日 猪熊弦一郎の世界1920-50 II	14	3,083	220
6	1992年10月15日～1992年11月15日 ティンガティンガ	28	14,075	503
7	1992年11月23日～1993年3月28日 猪熊弦一郎卒寿記念展	102	34,187	335
	1992年4月4日～1993年3月31日 常設展	304	58,769	193
計132,450 (累計 183,053)				
1993年度 (平成5年度)				
8	1993年4月10日～1993年5月9日 村井正誠展	27	4,076	151
9	1993年5月13日～1993年6月26日 猪熊弦一郎展 写実から抽象への道程	39	4,692	120
10	1993年7月4日～1993年8月29日 猪熊弦一郎表紙絵展	49	9,007	184
11	1993年9月3日～1993年10月11日 猪熊弦一郎素描展	34	6,457	190
12	1993年10月17日～1993年12月19日 藤島武二と9人の若き洋画家たち	55	11,618	211
13	1993年12月25日～1994年1月23日 新制作ミモカ展	21	2,655	126
14	1994年1月29日～1994年3月21日 ミロ展	45	11,933	265
15	1994年3月26日～1994年3月31日 軽井沢ドローイング・ビエンナーレ1993	5	382	76
	1993年4月1日～1994年3月31日 常設展	308	52,938	172
計103,758 (累計 286,811)				
1994年度 (平成6年度)				
15	1994年4月1日～1994年5月8日 軽井沢ドローイング・ビエンナーレ1993	33	4,129	125
16	1994年5月15日～1994年6月19日 デイヴィッド・ホックニー展	31	5,871	189
17	1994年6月25日～1994年7月30日 レジェ展	31	5,725	185
18	1994年8月3日～1994年10月2日 アフリカの動物と精霊たち展	53	13,463	254
19	1994年10月9日～1995年1月8日 猪熊弦一郎遺作展	74	18,562	251
20	1994年10月9日～1995年1月8日 勅使河原宏展	74	11,969	162
21	1995年1月14日～1995年2月26日 20世紀美術の巨匠たち	38	6,968	183
22	1995年3月5日～1995年3月31日 猪熊弦一郎の世界	23	1,885	82
	1994年4月1日～1995年3月31日 常設展	299	39,320	132
計107,892 (累計 394,703)				

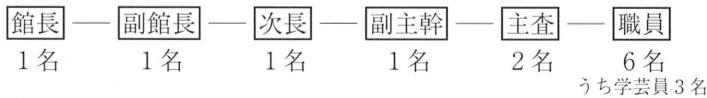
XI

組 織 図

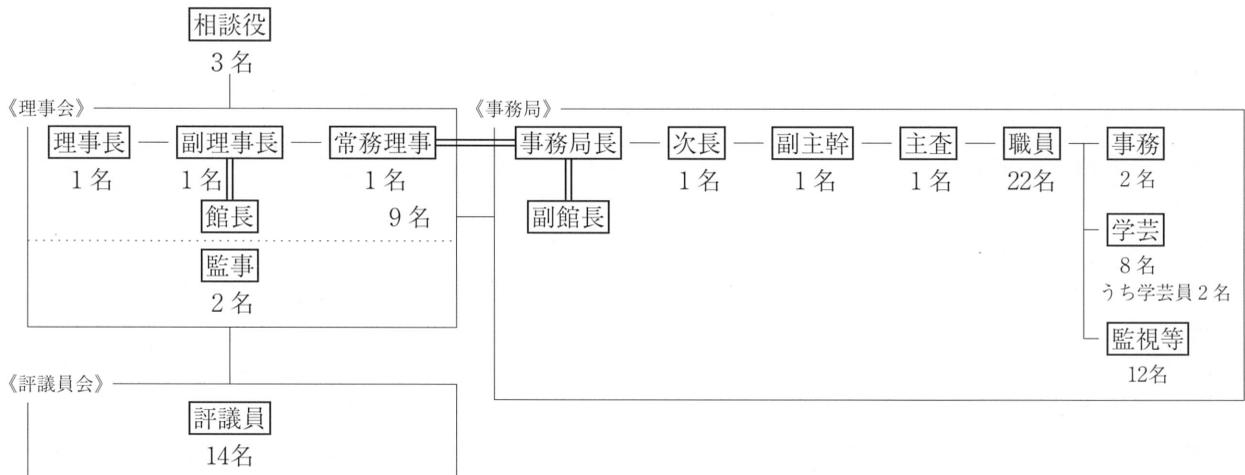
1991年度 (平成3年度)



1992年度 (平成4年度)



1993年度 (平成5年度)



相 談 役 藤田慎一郎 大原美術館館長
小倉 忠夫 名古屋ポストン美術館設立準備委員会常任顧問

荒井 茂雄 新制作協会会員

理 事 片山 圭之 丸亀市市長(理事長)
石田 薫 丸亀市教育委員会教育長(館長 兼 副理事長)
真鍋 成男 丸亀市議会議長
松田 正二 丸亀商工会議所会頭
河野 虎雄 丸亀市文化協会会長

池川 敏幸 香川大学名誉教授
芥 律子 丸亀市教育委員会委員長
香川 正明 丸亀市教育委員会生涯学習部長
長原 孝弘 副館長(常務理事)

監 事 香川 芳弘 丸亀市監査委員識見委員

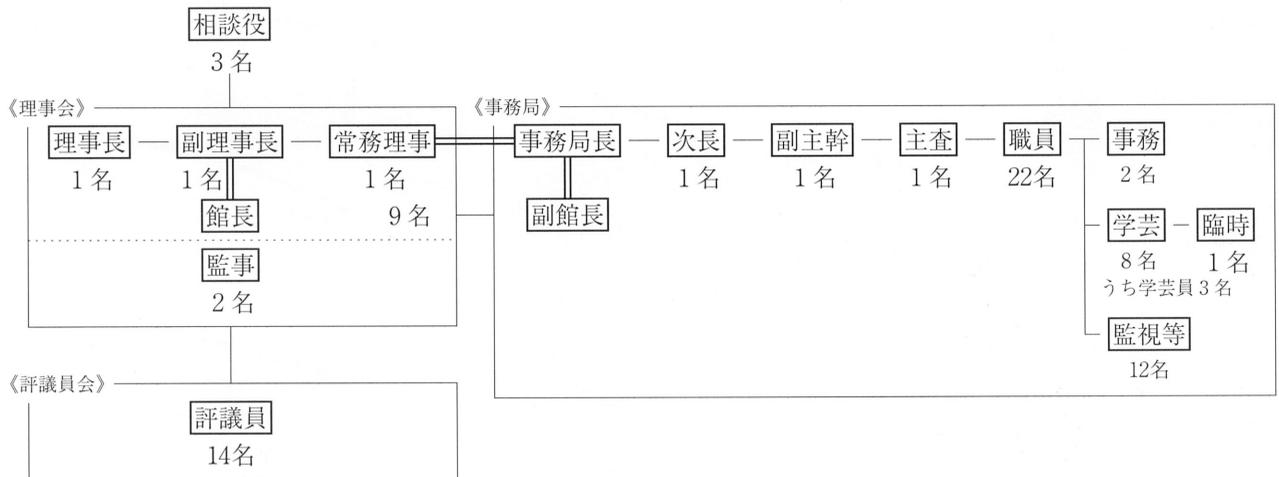
秋山 涉 丸亀市収入役

評議員 小野 昭七 丸亀市社会教育委員委員長
 森安満里子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長
 関子 昌子 まちづくり女性会議リーダー
 内海 安彦 丸亀市国際交流協会事務局代表
 小佐古公士 丸亀市小中学校長会会長
 草薙 貞子 丸亀市幼稚園長会会長
 西川 裕子 丸亀市保育所長会会長

香川 宏 前四国新聞社文化部長
 大西 康彦 彫刻家
 川松 美智 丸亀ユネスコ協会事務長
 川崎 展子 保専、善通寺西高講師
 中島 弘二 丸亀市生涯学習部生涯学習課長
 関 宏 丸亀市生涯学習部文化課長
 山下 岑生 丸亀市市民部生活課長

[1994年3月31日現在]

1994年度 (平成6年度)



相談役 藤田慎一郎 大原美術館館長
 小倉 忠夫 名古屋ボストン美術館設立準備委員会常任顧問

荒井 茂雄 新制作協会会員

理事 片山 圭之 丸亀市市長(理事長)
 笹川 高美 丸亀市教育委員会教育長(館長 兼 副理事長)
 山内 賢明 丸亀市議会議長
 松田 正二 丸亀商工会議所会頭
 河野 虎雄 丸亀市文化協会会長

池川 敏幸 香川大学名誉教授
 小田原保雄 丸亀市教育委員会委員長
 鎌田 順二 丸亀市教育委員会生涯学習部長
 長原 孝弘 副館長(常務理事)

監事 香川 芳弘 丸亀市監査委員識見委員

秋山 渉 丸亀市収入役

評議員 小野 昭七 丸亀市社会教育委員委員長
 森安満里子 丸亀市婦人団体連絡協議会会長
 関子 昌子 まちづくり女性会議リーダー
 内海 安彦 丸亀市国際交流協会事務局代表
 小佐古公士 丸亀市小中学校長会会長
 草薙 貞子 丸亀市幼稚園長会会長
 西川 裕子 丸亀市保育所長会会長

香川 宏 前四国新聞社文化部長
 大西 康彦 彫刻家
 川松 美智 丸亀ユネスコ協会事務長
 川崎 展子 保専、善通寺西高講師
 中島 弘二 丸亀市生涯学習部生涯学習課長
 関 宏 丸亀市生涯学習部文化課長
 山下 岑生 丸亀市市民部生活課長

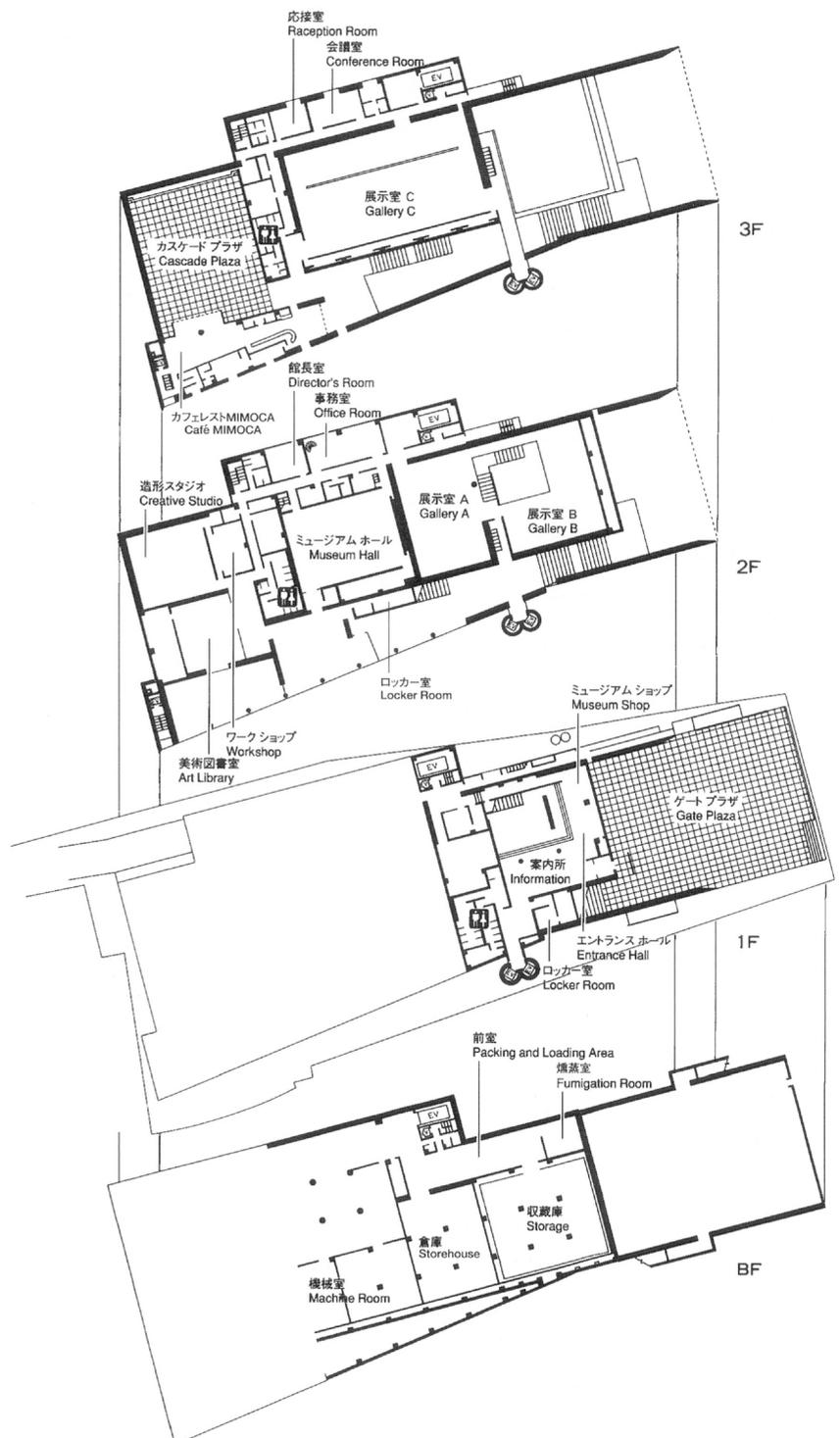
[1995年3月31日現在]

VIII

施設概要

所在地 丸亀市浜町80番地1
 敷地面積 5,974.53㎡
 規模構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造
 地下1階、地上3階
 最高高さ 20m
 建築面積 3,564.80㎡
 延床面積 11,948.14㎡
 仕上外壁 アルミ押出型材-Y(スパンドレル)
 石(パーリントンスレート)
 コンクリート打放し
 仕上内装 床：大理石、花崗岩、フローリングタイ
 ル、ライムストーン、カーペットタイル、ゴム
 タイル、塩ビシート
 壁：クロスステックス(展示室)ナブコホワ
 イト、ビニールクロス、布クロス
 天井：岩綿吸音ボード AEP、ボード塗
 装、アルミパネル
 設計 谷口建築設計研究所
 監理 丸亀市建築課
 谷口建築設計研究所
 施工 建築工事 (株)鹿島建設
 電気設備工事 (株)栗原工業
 機械設備工事 (株)川崎設備工業
 工期 平成元年11月21日着工
 平成3年6月20日竣工

3階 ● 展示室 C	642.74㎡
Gallery C	
カスケードプラザ	532.40㎡
Cascade Plaza	
カフェレスト MIMOCA	236.67㎡
Café MIMOCA	
会議室	
Conference Room	
2階 ● 展示室 A	285.66㎡
Gallery A	
展示室 B	286.96㎡
Gallery B	
ミュージアムホール	297.05㎡
Museum Hall	
170席(舞台照明・音響・映像設備完備)	
造形スタジオ	202.15㎡
Creative Studio	
ワークショップ	60.00㎡
Room for Workshop	
美術図書室	195.20㎡
Art Library	
ロッカー室	
Locker Room	
1階 ● 案内所	
Information	
ミュージアムショップ	
Museum Shop	
ロッカー室	
Locker Room	
BF ● 収蔵庫	373.64㎡
Storage	





XIII

利用案内

開館時間	午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）
休館日	毎週月曜日（月曜日が休日の場合はその翌日）、年末年始
観覧料	常設展 一般 300円（団体240円） 中・高生 100円（団体80円）
企画展	その都度料金設定
無料	小学生以下 身体障害者手帳、療育手帳をお持ちの方（介護者を含む） 中讃広域行政圏に住所を有する65歳以上の方 *中讃広域行政圏－丸亀市・善通寺市・綾歌町・ 飯山町・琴南町・満濃町・琴平町・多度津町・ 仲南町の2市7町
割引	20名以上の団体 2割引

交通案内	<input type="checkbox"/> 新幹線を利用する場合 東京～岡山 約3時間 ①特急を利用の場合 岡山～丸亀 特急 約40分 ②マリンライナー（坂出乗換）を利用の場合 岡山～坂出 マリンライナー 約40分 坂出～丸亀 普通 約5分 J R丸亀駅から徒歩1分
	<input type="checkbox"/> 飛行機を利用する場合 東京～高松空港 約1時間 ①空港からタクシーを利用の場合 約40分 ②空港からバス、高松からJ R利用の場合 バス 約40分 電車(特急) 約20分
	<input type="checkbox"/> 高速道路を利用する場合 岡山から 瀬戸中央自動車道……坂出北ICから丸亀市方面へ約20分 松山から 松山・高松自動車道…善通寺ICから丸亀市方面へ約15分 高知から 高知・高松自動車道…善通寺ICから丸亀市方面へ約15分 徳島から 徳島自動車道……美馬ICから丸亀市方面へ約40分
	駐車場◆J R丸亀駅前地下駐車場を利用（1時間無料）

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館年報 1991-94

平成11年3月 印刷

平成11年3月 発行

編集・発行 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

香川県丸亀市浜町80-1 TEL(0877)24-7755

印刷 平和写真印刷株式会社

香川県丸亀市土器町北1-18 TEL(0877)23-1300

